

平成 22 年度
かわさき市民アンケート
報 告 書

川 崎 市

目 次

I	調査概要	1
II	調査回答者の属性	5
1	第1回アンケートの回答者	7
2	第2回アンケートの回答者	11
III	調査結果	15
①	第1回アンケートの結果	17
1	生田緑地について	19
1-1	生田緑地に行った経験・頻度	19
1-2	生田緑地に行ったことがない理由	21
1-3	生田緑地に行った目的・場所	23
1-4	生田緑地及び緑地内の各施設の満足度	27
1-5	生田緑地を快適に利用するための条件	37
1-6	(仮称) 藤子・F・不二雄ミュージアムの認知状況・訪館予定	39
1-7	中央広場・青少年科学館改修の認知状況・訪館予定	43
2	地球温暖化防止について	47
2-1	日常生活における地球温暖化防止への意識状況	47
2-2	日常生活の中ですべき取り組み	49
2-3	個人が日常生活で行う取り組みについての意識状況	51
2-4	個人が日常生活で行う取り組みが十分にできない理由	53
2-5	現在行っている取り組み・今後行いたい取り組み	55
2-6	「川崎市地球温暖化対策推進条例」の認知状況	57
2-7	川崎市に取り組んで欲しい地球温暖化対策	59
2-8	川崎市に最も主体的に取り組んでほしい対策	61
3	効果的なごみ減量化方策について	63
3-1	家庭系ごみ減量化のために効果的だと思われる方法	63
3-2	事業系ごみ減量化のために効果的だと思われる方法	65
3-3	ミックスペーパー分別モデル収集実施の認知状況	67
3-4	ミックスペーパー分別収集モデル収集地域可否か	69
3-5	ミックスペーパー分別収集の実施状況・実施予定	71
3-6	ミックスペーパー分別収集の取り組みへの阻害要因	76
3-7	プラスチック製容器包装の分別収集への取り組み予定	78
3-8	プラスチック製容器包装の分別収集において必要とされる情報	83
3-9	ごみ減量化に協力できる項目	85
4	救急車の利用について	87
4-1	救急車要請における緊急性についての意識状況	87
4-2	緊急性がない場合に救急車を利用する理由	89
4-3	救急車利用の約6割が入院不要の軽症者であることの認知状況	91
4-4	川崎市救急医療情報センターの認知状況	93
4-5	サポート救急制度の認知状況	95

4-6	サポート救急制度を知った手段	97
4-7	緊急性が低い場合にサポート救急制度を利用するか	99
5	選挙について	101
5-1	情報源として実際に見たり聞いたりしたもの	101
5-2	情報源として投票する際に役に立ったもの	104
5-3	タレント起用について	107
5-4	来春の川崎市議会議員選挙等の認知状況	109
5-5	今後の選挙において効果的だと思われる市からの情報源	111
5-6	来春の川崎市議会議員選挙等の投票についての意識状況	114
5-7	来春の川崎市議会議員選挙等で投票しない理由	116
②	第2回アンケートの結果	119
1	定住状況について	121
1-1	居住年数	121
1-2	定住意向	123
1-3	転居意向の理由	126
1-4	転居先の希望	129
2	生活環境の評価について	132
2-1	生活環境の満足度	132
2-2	総合的な生活環境の満足度	143
3	関心ごとと行動範囲について	147
3-1	関心を持っていること	147
3-2	行動範囲	150
4	市政に対する評価と要望について	156
4-1	市政の仕事でよくやっていると思うこと	156
4-2	市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと	160
4-3	施策や事業の総合的な満足度	164
5	川崎市ホームページからの情報提供について	167
5-1	市からのお知らせや情報の入手手段	167
5-2	市のホームページの閲覧頻度	169
5-3	市のホームページの利用目的	171
5-4	必要な情報を探した方法	174
5-5	必要な情報は探しやすかったか	176
5-6	期待した情報は得られたか	178
5-7	得られなかった理由	180
5-8	市からの情報で充実してほしいもの	182
6	地域福祉について	184
6-1	隣近所の人の手助け等をした経験・手助けしてもらいたいこと	184
6-2	心配なことが起きたときの相談先	188
6-3	今後必要な支援を行うべき担い手について	191
6-4	保健や福祉に関するボランティアについて活動した経験	193
6-5	「介護支援ボランティア・ポイント制度」のボランティアとして活動に参加するか	195
7	住宅防火対策について	197

7-1	放火防止対策で大切と思われる行動	197
7-2	川崎市からの情報を知った方法・効果的な方法	199
7-3	住宅用火災警報器の設置状況	205
7-4	住宅用火災警報器の購入経路	208
7-5	住宅用火災警報器を設置した後の感想	210
7-6	住宅用火災警報器を設置した場所	212
7-7	住宅用火災警報器を設置していない理由	214
8	市職員に対する市民意識について	217
8-1	市職員と接する頻度	217
8-2	市職員と接する場所	220
8-3	市職員による市民対応等についての感想	223
8-4	市職員あるいは職員の仕事ぶりについての印象	231
8-5	市職員に求めるもの	239
9	自転車対策について	242
9-1	自転車の利用状況・目的	242
9-2	重要だと思う放置自転車対策	245
9-3	路上放置の減少・駐輪場利用の促進のための方策	247
IV	調査票	251

I 調査概要

1. 調査の目的

「かわさき市民アンケート」は、昭和 50 年度から毎年 1 回 1,500 人を対象として行っていた「市民意識実態調査」を、より多くのテーマ、より多くの対象に調査するため、調査回数を年 2 回、各回 3,000 人の市民を対象にした調査に拡充し、名称を変更して平成 18 年度から実施することとしたものである。

昭和 50 年度から継続的に行ってきた市民の定住状況、生活環境の評価、市政に対する評価と要望等に加えて、市民生活に関するいくつかのテーマなどについて、市民の生活意識や行政に対する意識を調査し、市政運営や政策立案の参考資料とすることを目的として実施した。

2. 調査の方法

- (1) 調査の地域 川崎市全域
- (2) 調査の対象者 川崎市在住の満 20 歳以上の男女個人
- (3) 標本の抽出 住民基本台帳および外国人登録原票からの層化二段無作為抽出
- (4) 標本数 第 1 回 3,000 標本 (平成 22 年 7 月抽出)
第 2 回 3,000 標本 (平成 22 年 10 月抽出)
- (5) 調査方法 郵送法 (郵便配布・郵送回収・はがき督促を 1 回)
- (6) 調査期間 第 1 回 平成 22 年 7 月 16 日 (金) ～ 8 月 4 日 (水)
第 2 回 平成 22 年 11 月 9 日 (火) ～ 11 月 17 日 (水)
- (7) 調査委託機関 パシフィックリプロサービス株式会社

3. 調査項目

◎ 第 1 回

＜調査テーマ＞	＜問番号＞
(1) 生田緑地について	(問 1 ～問 7)
(2) 地球温暖化防止について	(問 8 ～問 15)
(3) 効果的なごみ減量化方策について	(問 16 ～問 24)
(4) 救急車の利用について	(問 25 ～問 31)
(5) 選挙について	(問 32 ～問 38)

◎ 第 2 回

＜調査テーマ＞	＜問番号＞
(1) 定住状況について	(問 1 ～問 4)
(2) 生活環境の評価について	(問 5 ～問 6)
(3) 関心ごとと行動範囲について	(問 7 ～問 8)
(4) 市政に対する評価と要望について	(問 9 ～問 11)
(5) 川崎市ホームページからの情報提供について	(問 12 ～問 19)
(6) 地域福祉について	(問 20 ～問 24)
(7) 住宅防火対策について	(問 25 ～問 31)
(8) 市職員に対する市民意識について	(問 32 ～問 36)
(9) 自転車対策について	(問 37 ～問 39)

4. 回収状況

	第1回	第2回
(1) 標本数	3,000 標本	3,000 標本
(2) 有効回収数	1,503 人	1,580 人
(3) 有効回収率	50.1%	52.7%

5. 報告書の見方

- (1) 集計は、小数点第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が 100.0%にならない場合がある。
- (2) 基数となるべき実数 (n) は、設問に対する回答者数である。
- (3) 回答の比率 (%) は、その質問の回答者数を基数として算出している。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると 100.0%を超えることがある。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している。
- (5) 回答数が 30 未満と小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。

6. 標本誤差

標本誤差は次式で得られ、①比率算出の基数 (n)、②回答の比率 (p) によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N = 母集団数 (川崎市の 20 歳以上人口)
 n = 比率算出の基数 (回答者数)
 p = 回答の比率 (%)

今回の調査結果の標本誤差は下記のようなになる。

回答比率 (p) n	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
1,580	±2.13%	±2.84%	±3.26%	±3.48%	±3.56%
1,503	±2.19%	±2.92%	±3.34%	±3.57%	±3.65%
1,000	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
700	±3.21%	±4.28%	±4.90%	±5.24%	±5.35%
500	±3.79%	±5.06%	±5.80%	±6.20%	±6.32%
300	±4.90%	±6.53%	±7.48%	±8.00%	±8.16%

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は 95%である。

注／この表の見方

標本誤差とは、今回のように全体 (母集団) の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能である。その計算式を今回の調査に当てはめて算出したのが、上記の表である。見方としては、例えば、「ある設問の回答者数が 1,503 人であり、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも ±3.57%以内 (56.43~63.57%) である」とみることができる。

Ⅱ 調査回答者の属性

1 第1回アンケートの回答者

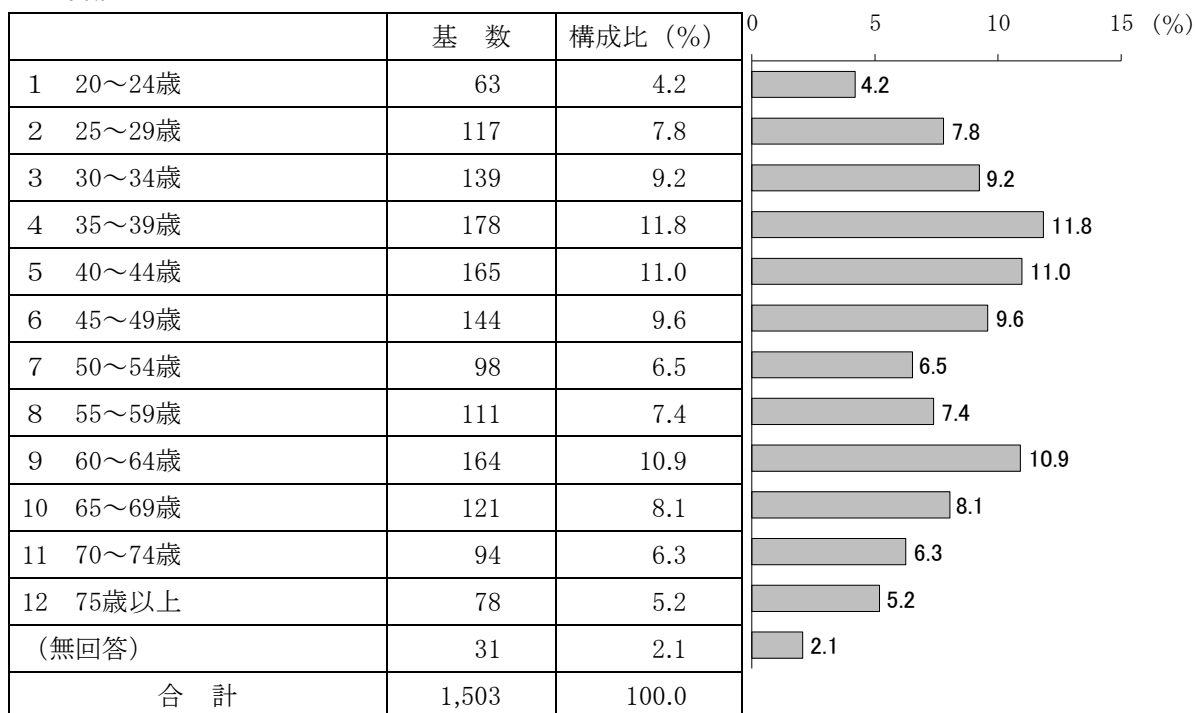
1 居住区



2 性別

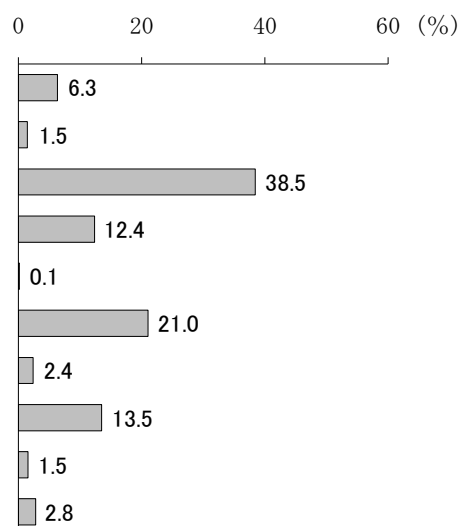


3 年齢



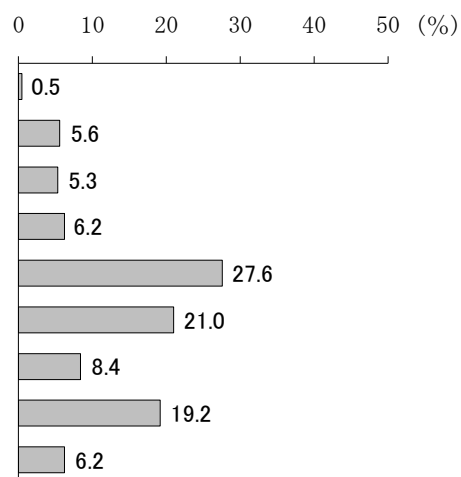
4 職業

	基 数	構成比 (%)
1 自営業主	95	6.3
2 家族従業（家業手伝い）	22	1.5
3 勤め（全日）	578	38.5
4 勤め（パートタイム）	186	12.4
5 内職	2	0.1
6 主婦・主夫（家事専業）	316	21.0
7 学生	36	2.4
8 無職（年金生活者を含む）	203	13.5
9 その他	23	1.5
（無回答）	42	2.8
合 計	1,503	100.0



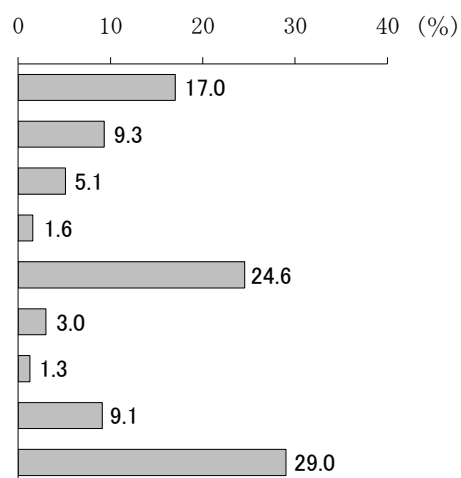
5 具体的な職業内容

	基 数	構成比 (%)
家族従業者・自営業主	1 農林漁業	0.5
	2 商工サービス業	5.6
	3 自由業	5.3
パートタイム・勤め（全日）	4 経営・管理職	6.2
	5 専門・技術職	27.6
	6 事務職	21.0
	7 技能・労務職	8.4
	8 販売・サービス職	19.2
（無回答）	55	6.2
合 計	881	100.0

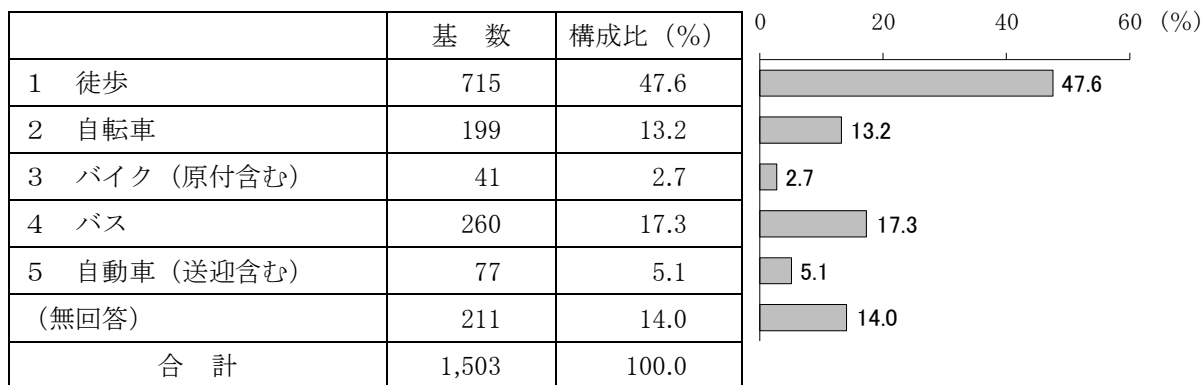


6 通勤先・通学先

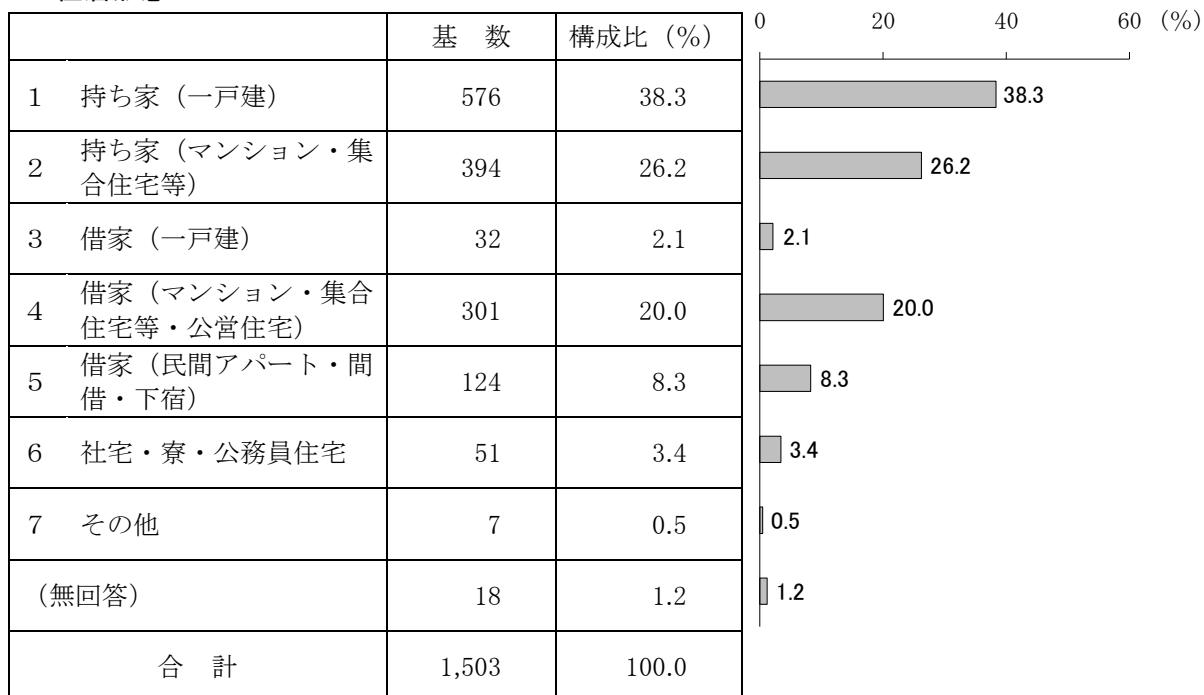
	基 数	構成比 (%)
1 川崎市内（お住まいと同じ区）	256	17.0
2 川崎市内（お住まいと別の区）	140	9.3
3 横浜市	77	5.1
4 神奈川県内（川崎市・横浜市以外）	24	1.6
5 東京都（23区内）	369	24.6
6 東京都（23区以外）	45	3.0
7 その他	19	1.3
8 通勤・通学していない	137	9.1
（無回答）	436	29.0
合 計	1,503	100.0



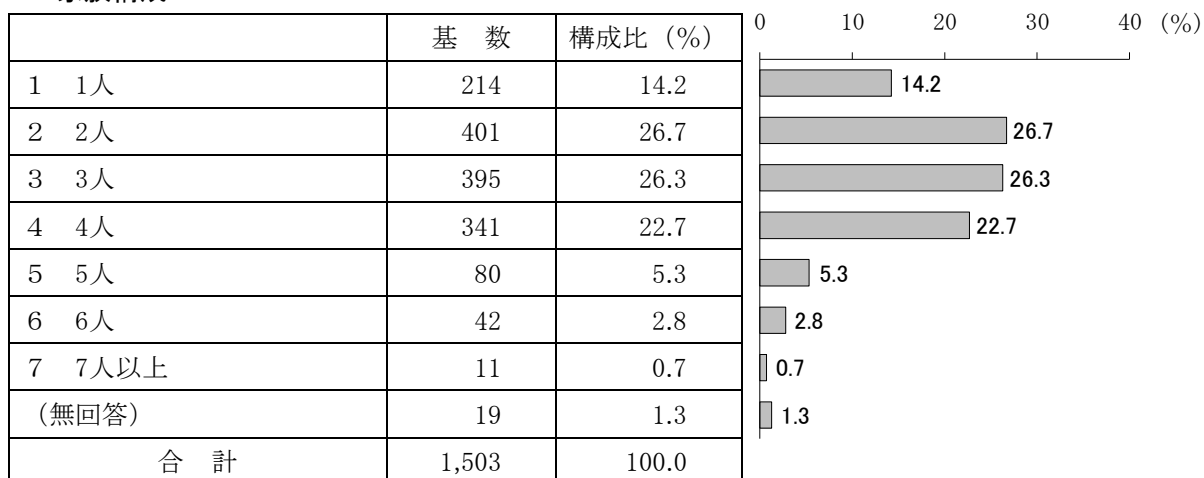
7 駅までの交通手段



8 住居形態

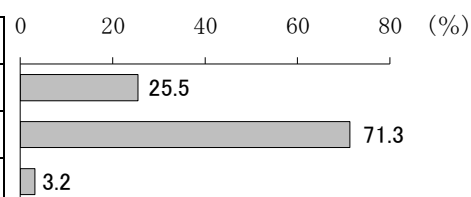


9 家族構成



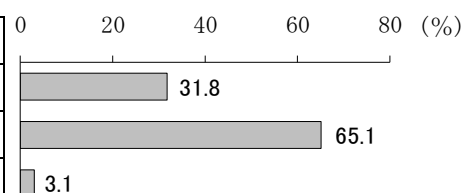
10 中学生以下の子どもの有無

	基 数	構成比 (%)
1 いる	383	25.5
2 いない	1072	71.3
(無回答)	48	3.2
合 計	1,503	100.0



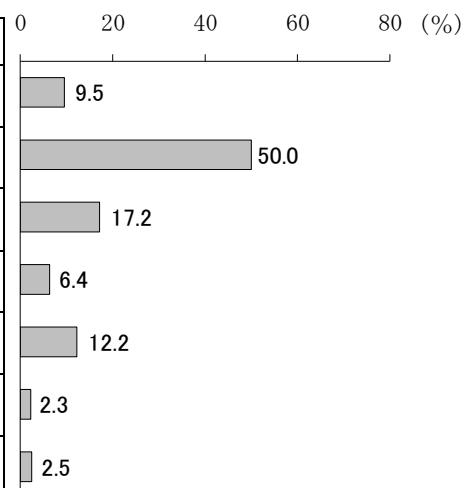
11 65歳以上の方との同居

	基 数	構成比 (%)
1 いる	478	31.8
2 いない	979	65.1
(無回答)	46	3.1
合 計	1,503	100.0



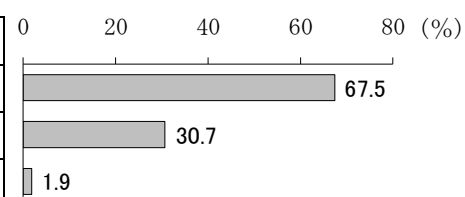
12 地域環境

	基 数	構成比 (%)
1 オフィスビル、商業ビル、商店などがある地域	143	9.5
2 古くからの住宅が中心となっている地域	751	50.0
3 新しく開発された住宅地域	258	17.2
4 住宅と工場が混在している地域	96	6.4
5 まわりに田畑や山林などの緑が残されている地域	184	12.2
6 その他	34	2.3
(無回答)	37	2.5
合 計	1,503	100.0



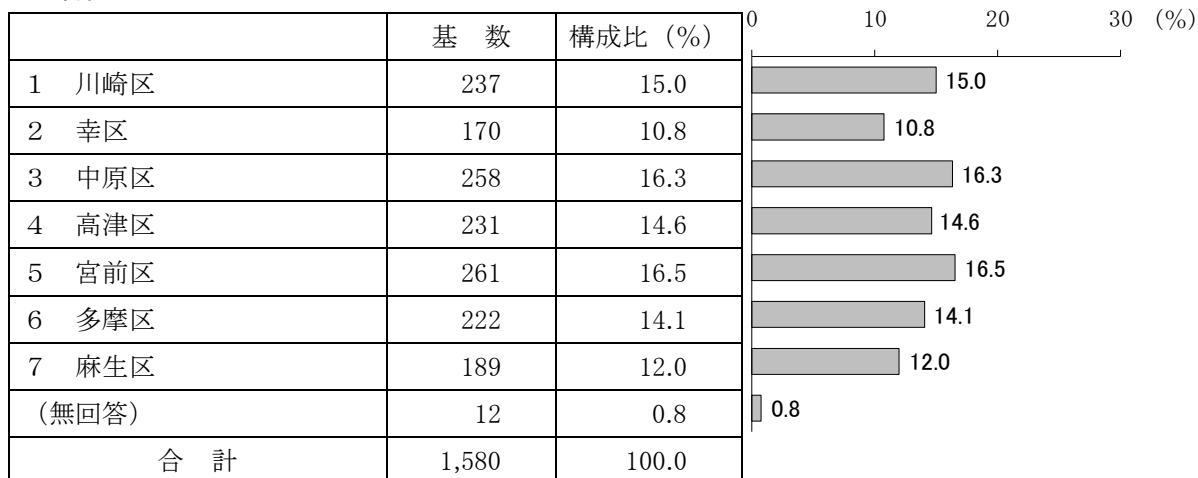
13 町内会への加入状況

	基 数	構成比 (%)
1 いる	1,014	67.5
2 いない	461	30.7
(無回答)	28	1.9
合 計	1,503	100.0



1 第2回アンケートの回答者

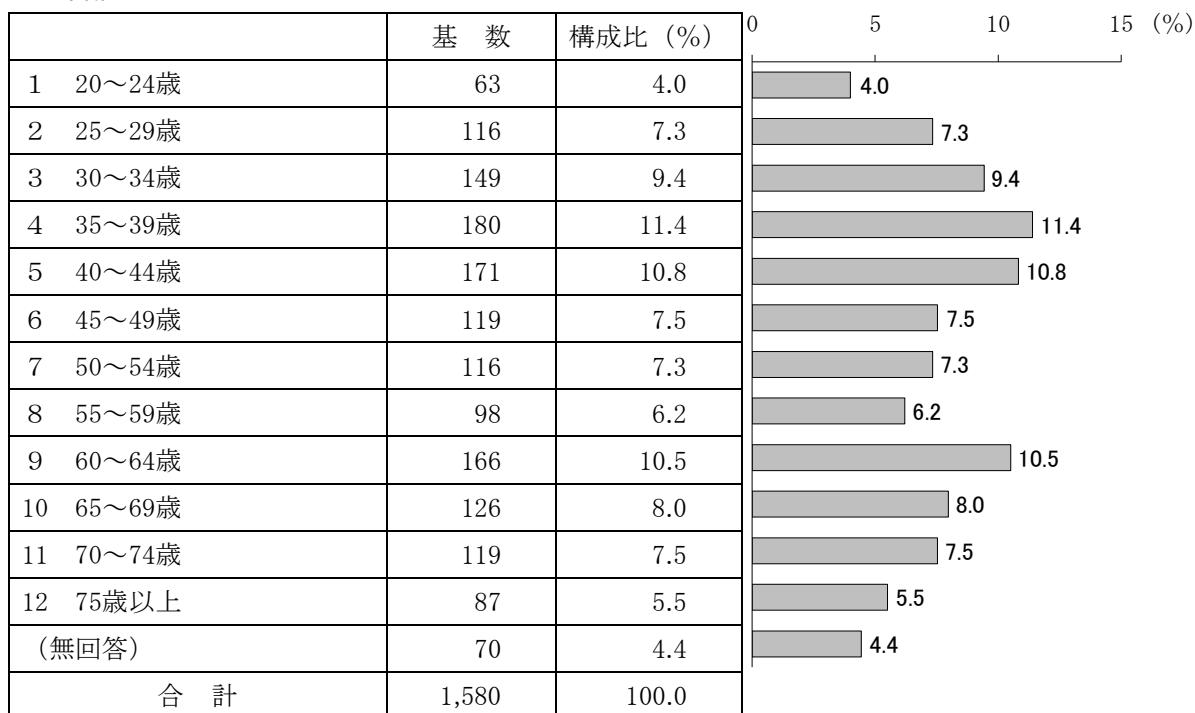
1 居住区



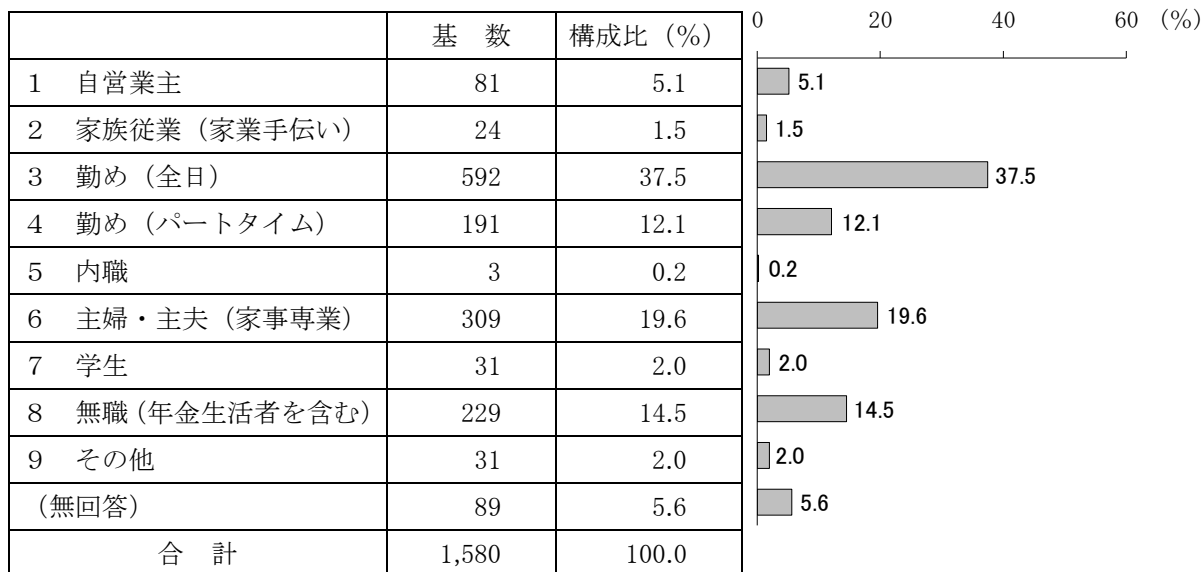
2 性別



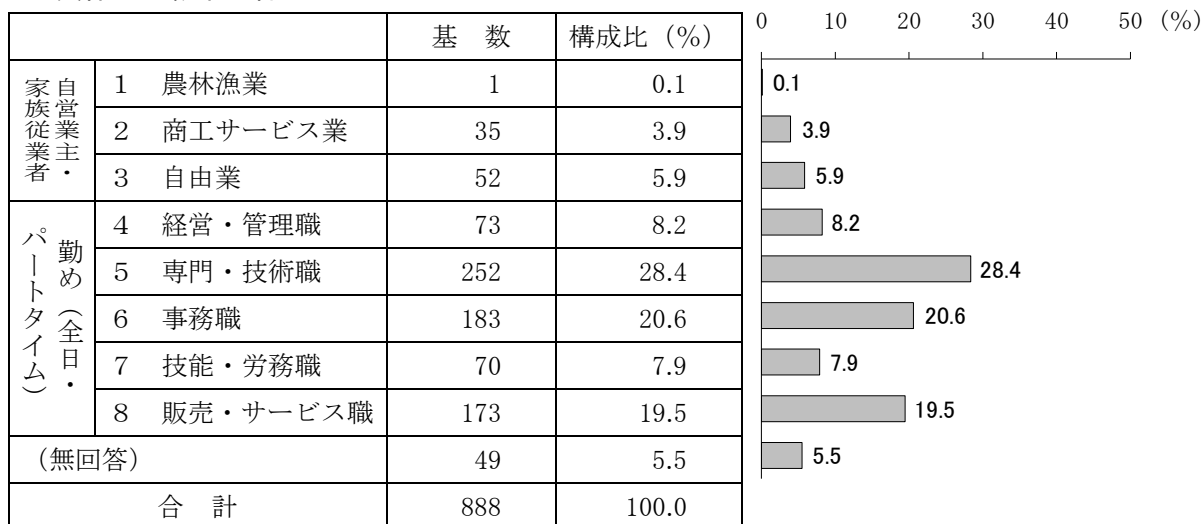
3 年齢



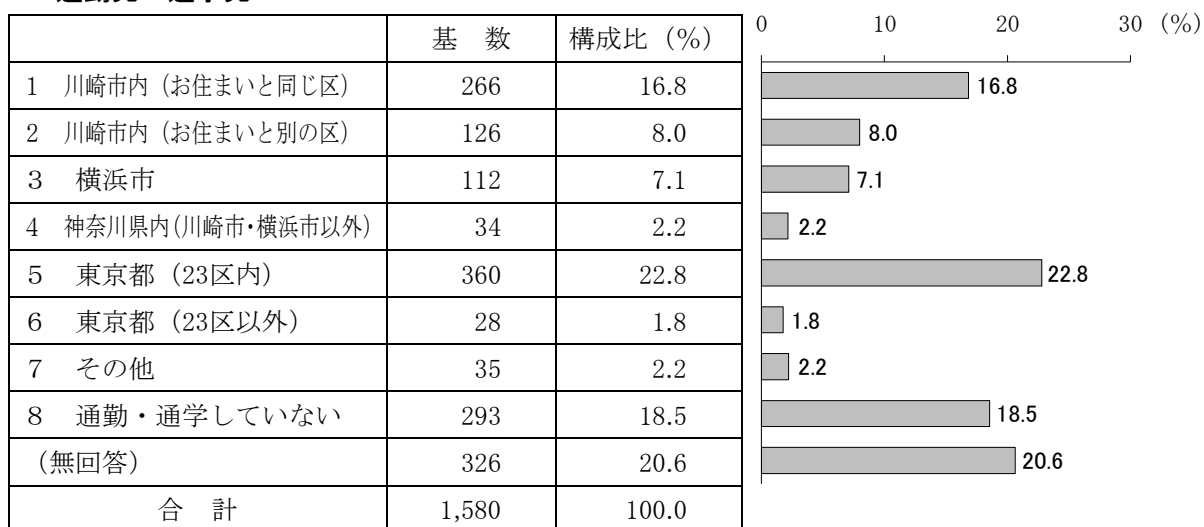
4 職業



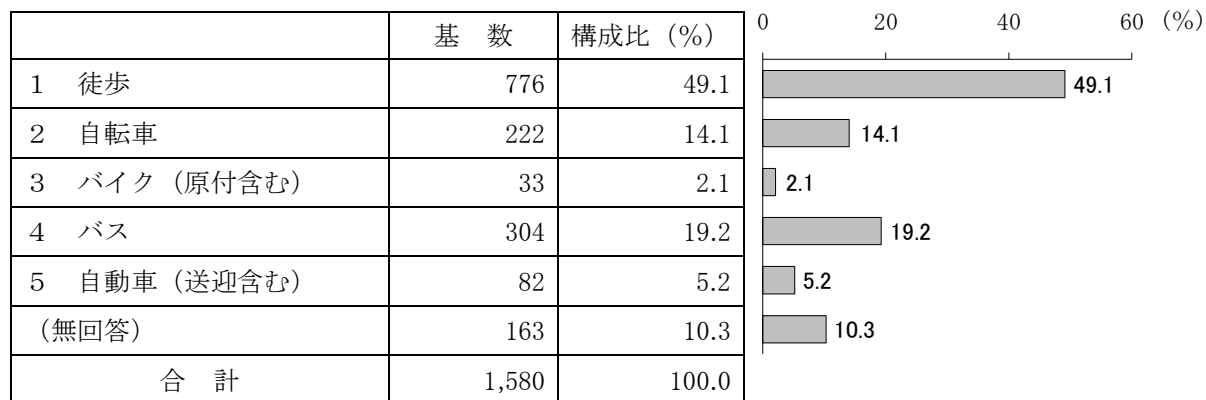
5 具体的な職業内容



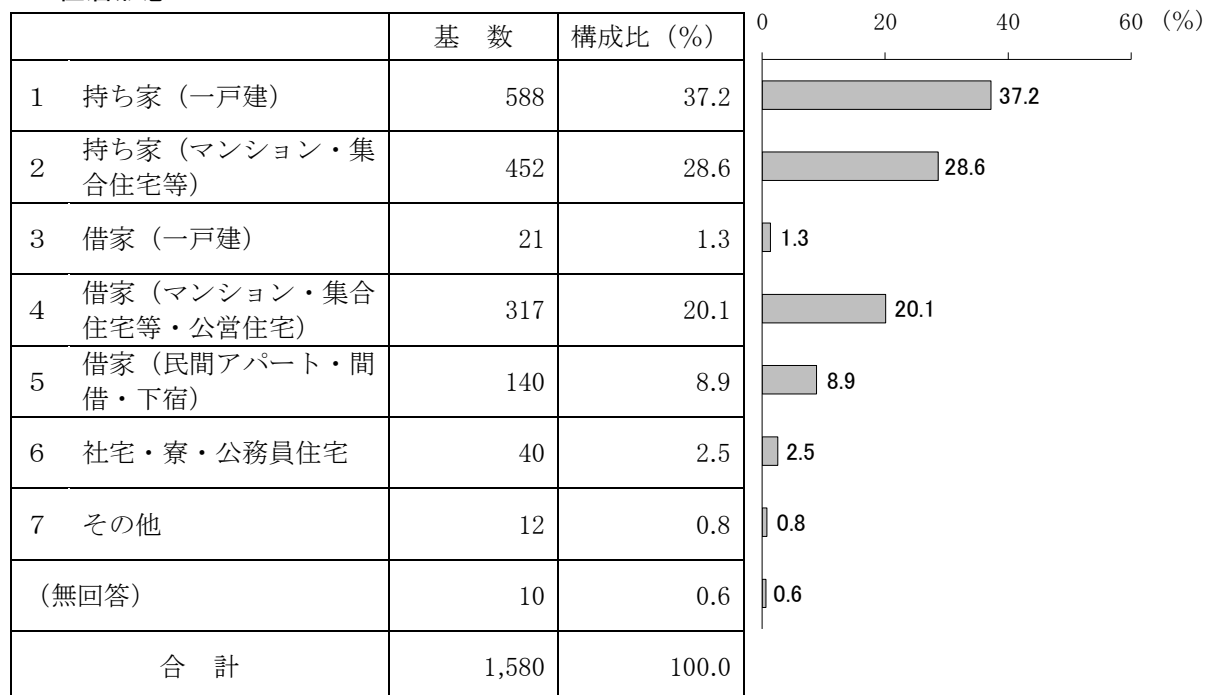
6 通勤先・通学先



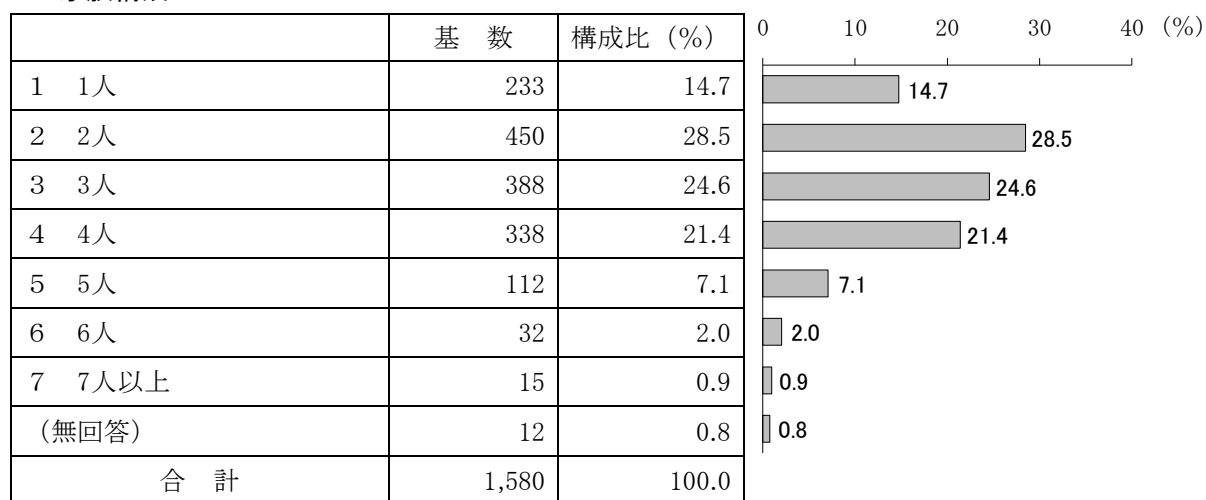
7 駅までの交通手段



8 住居形態

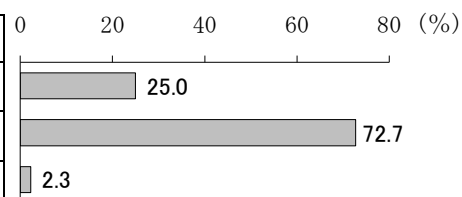


9 家族構成



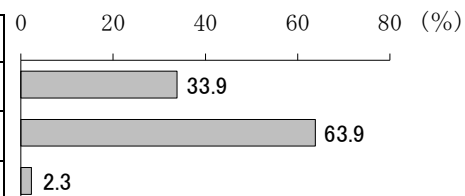
10 中学生以下の子どもの有無

	基 数	構成比 (%)
1 いる	395	25.0
2 いない	1149	72.7
(無回答)	36	2.3
合 計	1,580	100.0



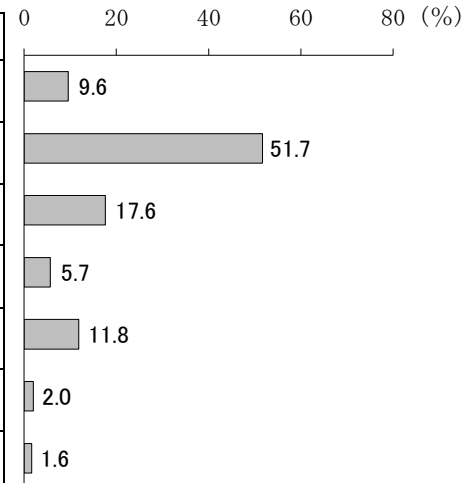
11 65歳以上の方との同居

	基 数	構成比 (%)
1 いる	535	33.9
2 いない	1009	63.9
(無回答)	36	2.3
合 計	1,580	100.0



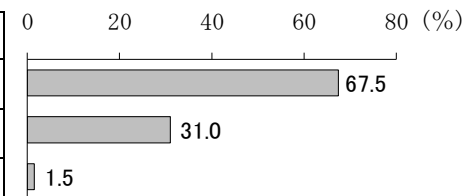
12 地域環境

	基 数	構成比 (%)
1 オフィスビル、商業ビル、商店などがある地域	151	9.6
2 古くからの住宅が中心となっている地域	817	51.7
3 新しく開発された住宅地域	278	17.6
4 住宅と工場が混在している地域	90	5.7
5 まわりに田畑や山林などの緑が残されている地域	187	11.8
6 その他	31	2.0
(無回答)	26	1.6
合 計	1,580	100.0



13 町内会への加入状況

	基 数	構成比 (%)
1 いる	1066	67.5
2 いない	490	31.0
(無回答)	24	1.5
合 計	1,580	100.0



Ⅲ 調査結果

① 第1回アンケートの結果

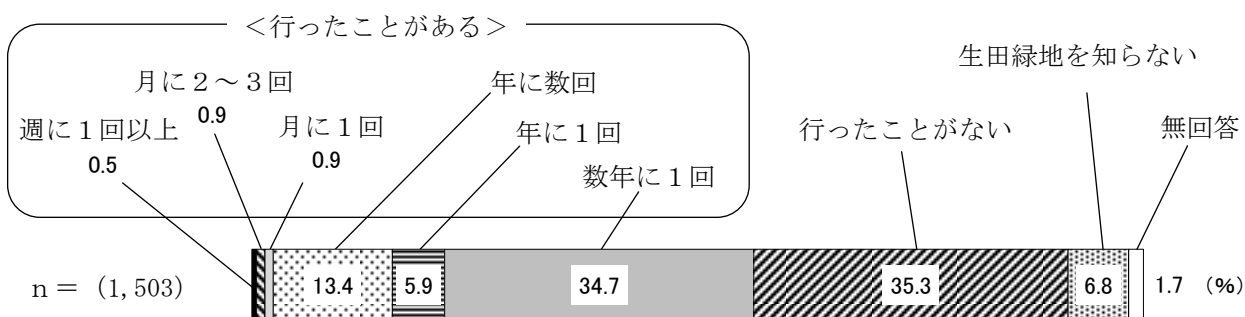
1 生田緑地について

1-1 生田緑地に行った経験・頻度

◎<行ったことがある>が54.0%

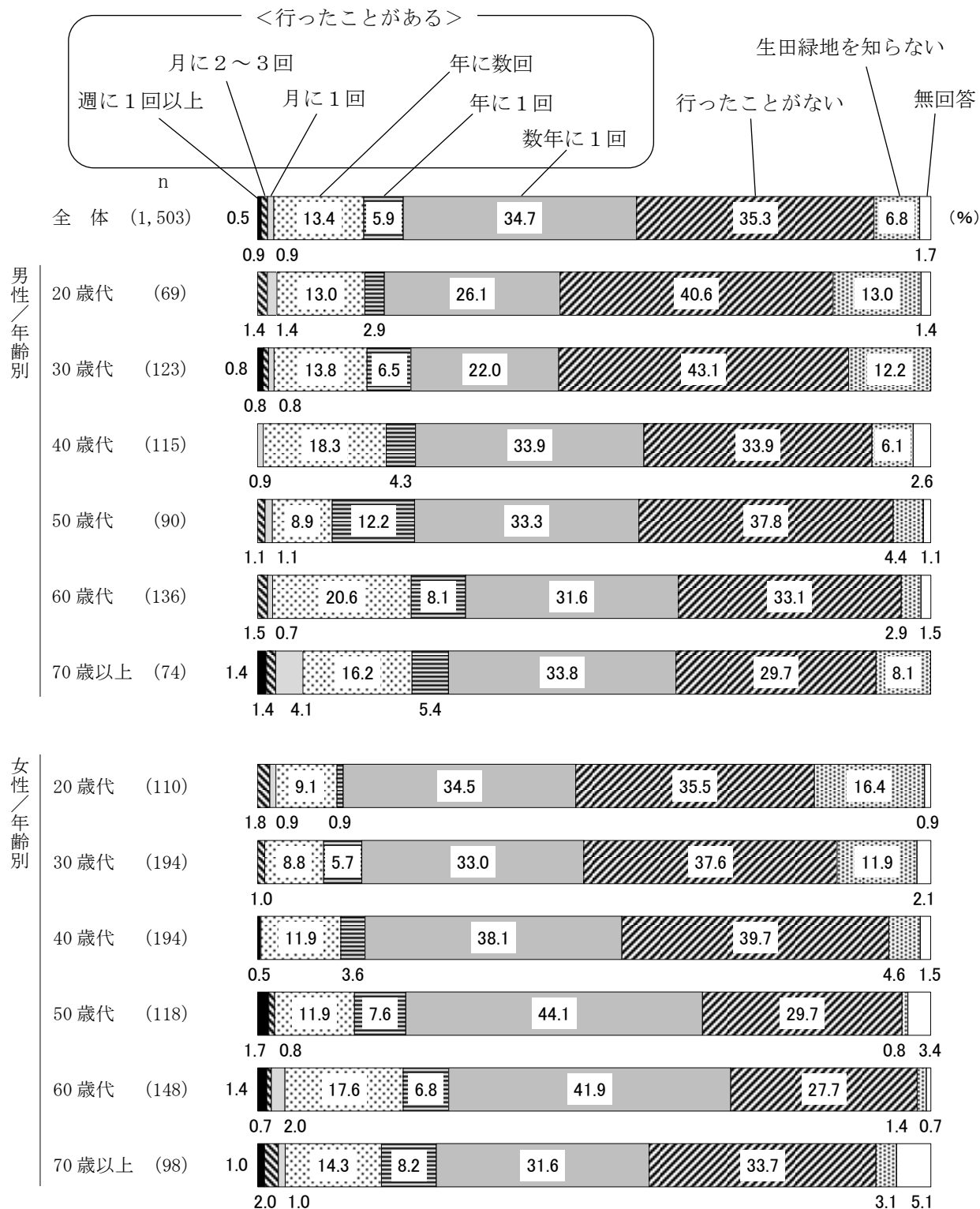
問1 あなたは、生田緑地に行ったことがありますか。また、頻度はどの程度ですか。
(○は1つだけ)

図表1-1 生田緑地に行った経験・頻度



生田緑地に行った経験・頻度は、「年に数回」(13.4%)と「年に1回」(5.9%)と「数年に1回」(34.7%)をあわせた<行ったことがある>が54.0%となっている。一方、「行ったことがない」は、35.3%となっている。(図表1-1)

図表1-2 生田緑地に行った経験・頻度(性/年齢別)



性/年齢別では、「年に数回」と「年に1回」と「数年に1回」をあわせて＜行ったことがある＞は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっているが、女性では70歳以上が54.1%と少なくなっている。男性では60歳代が60.3%で最も多くなっている。女性も60歳代が66.3%と最も多くなっている。(図表1-2)

1-2 生田緑地に行ったことがない理由

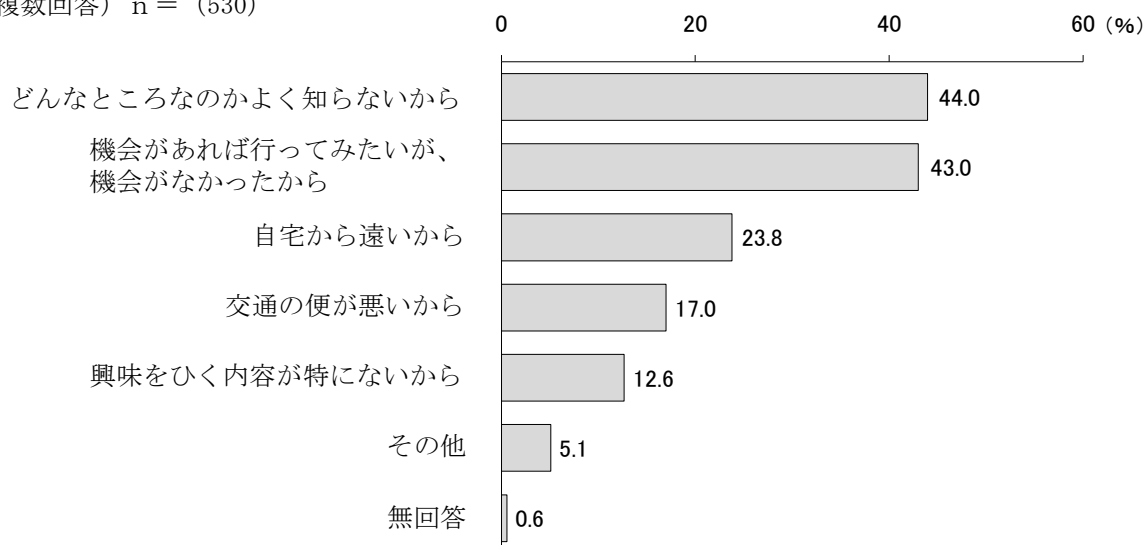
◎「どんなところなのかよく知らないから」が44.0%

(問1で生田緑地に行ったことがないと答えた方にうかがいます。)

問2 行ったことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

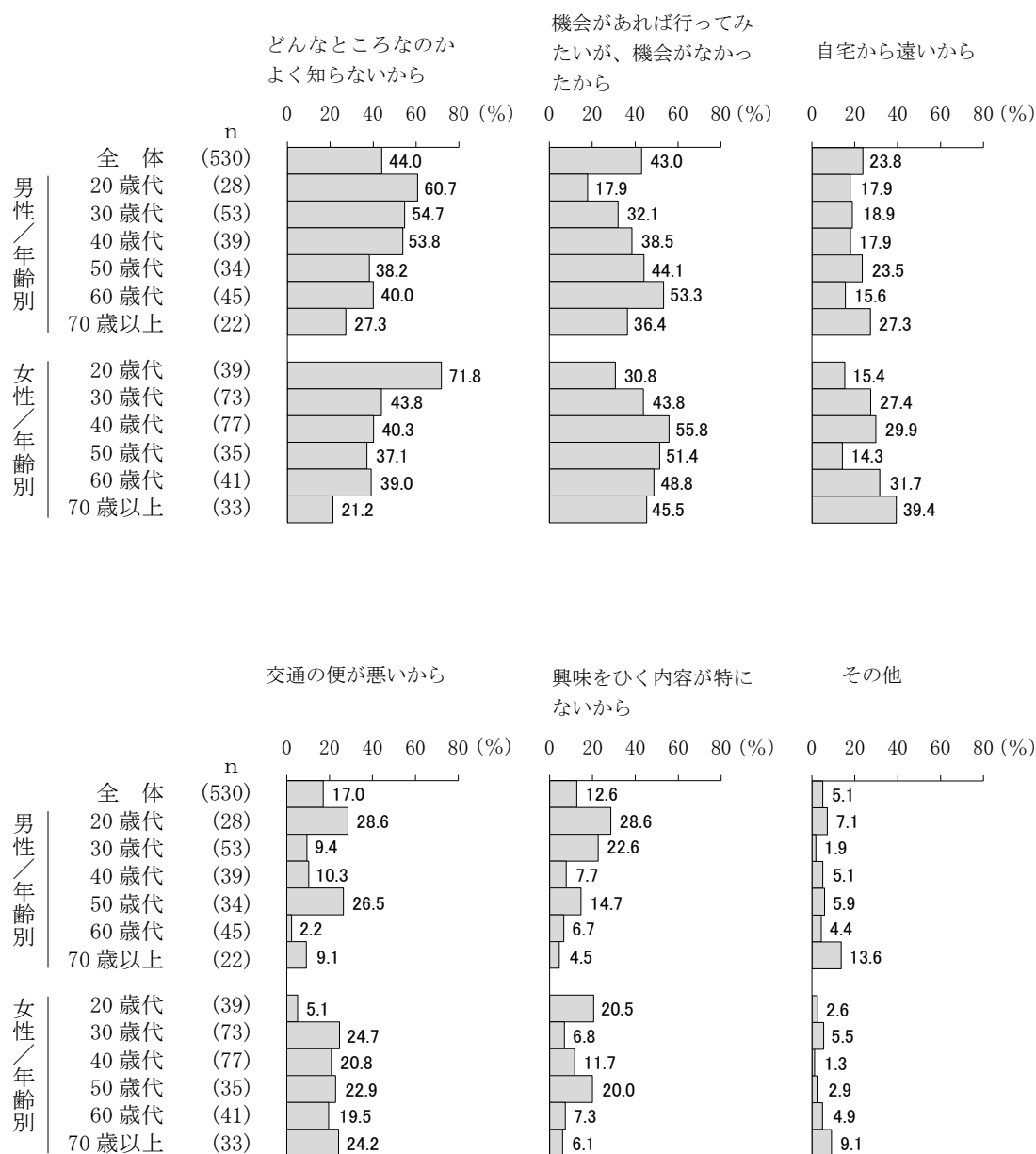
図表1-3 生田緑地に行ったことがない理由

(複数回答) n = (530)



生田緑地に行ったことがない理由は、「どんなところなのかよく知らないから」が44.0%と最も多くなっている。次いで、「機会があれば行ってみたいが、機会がなかったから」が43.0%、「自宅から遠いから」が23.8%となっている。(図表1-3)

図表1-4 生田緑地に行ったことがない理由(性/年齢別)



性/年齢別では、「どんところなのかよく知らないから」は、女性では20歳代が71.8%と多くなっている。「機会があれば行ってみたいが、機会がなかったから」は、男性では60歳代が53.3%、女性では40歳代が55.8%と最も多くなっている。「興味をひく内容が特にないから」は、男性では20歳代が28.6%、女性も20歳以上が20.5%と最も多くなっている。(図表1-4)

1-3 生田緑地に行った目的・場所

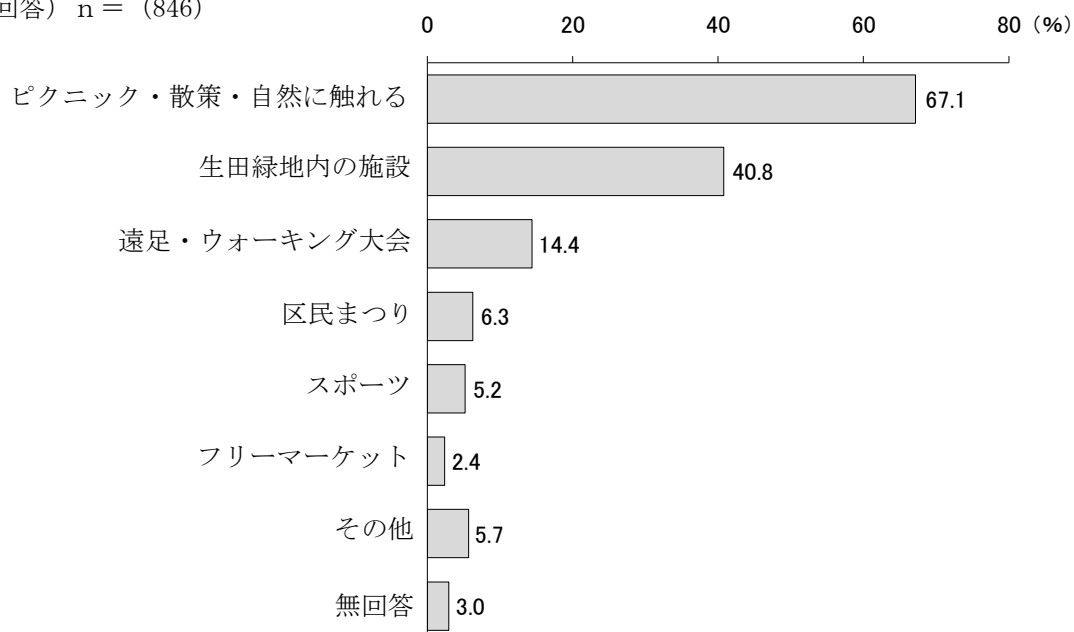
◎目的は「ピクニック・散策・自然に触れる」が67.1%

(生田緑地へ行ったことがあると回答した方にうかがいます。)

問3 生田緑地に行った目的・場所は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

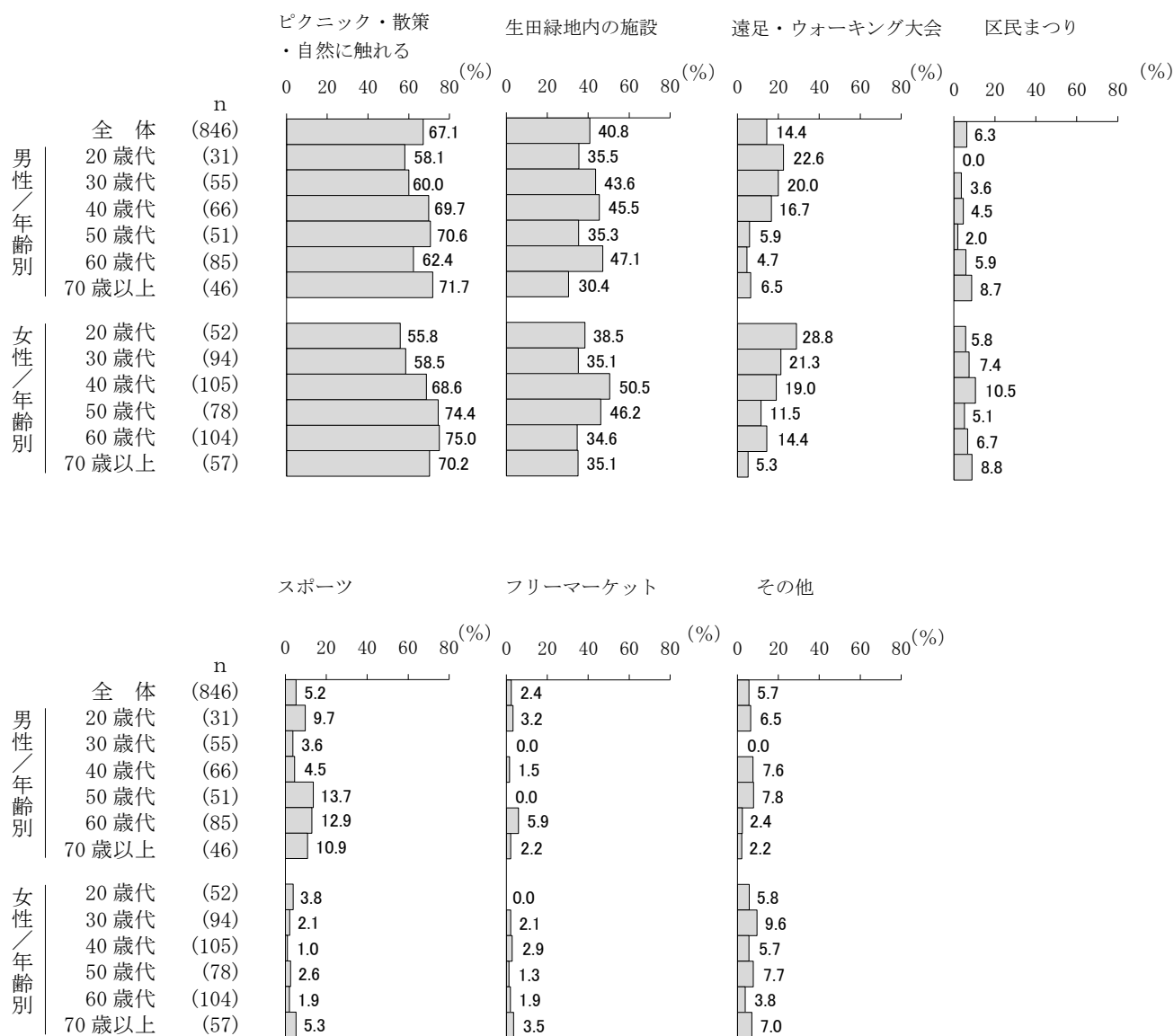
図表1-5 生田緑地に行った目的

(複数回答) n = (846)



生田緑地に行った目的は、「ピクニック・散策・自然に触れる」が67.1%と最も多くなっている。次いで、「生田緑地内の施設」が40.8%、「遠足・ウォーキング大会」が14.4%となっている。(図表1-5)

図表1-6 生田緑地に行った目的(性/年齢別)

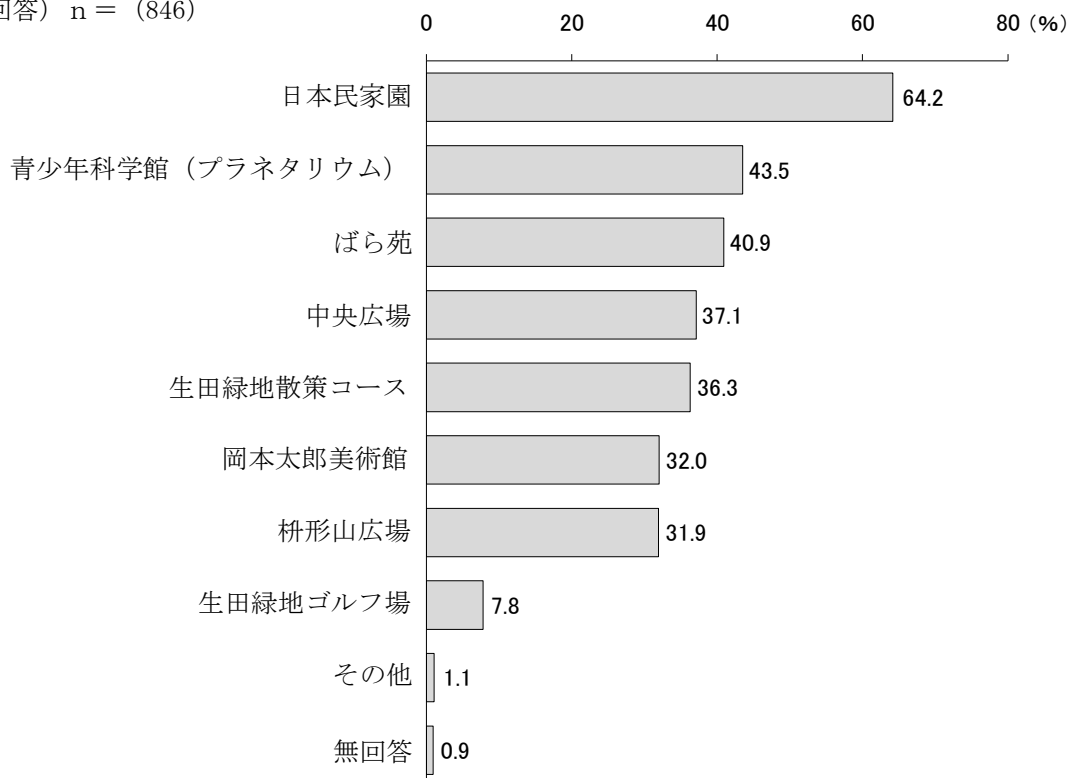


性/年齢別では、「ピクニック・散策・自然に触れる」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「遠足・ウォーキング大会」は、男性では50歳代から70歳以上で1割未満と少なくなっており、女性では50歳代から60歳代までが1割台前半から1割台半ばと多くなっている。「スポーツ」は、男性では50歳代から70歳以上が1割台前半から1割台半ばと多くなっており、女性ではいずれの年齢でも1割未満となっている。(図表1-6)

◎場所は「日本民家園」が64.2%

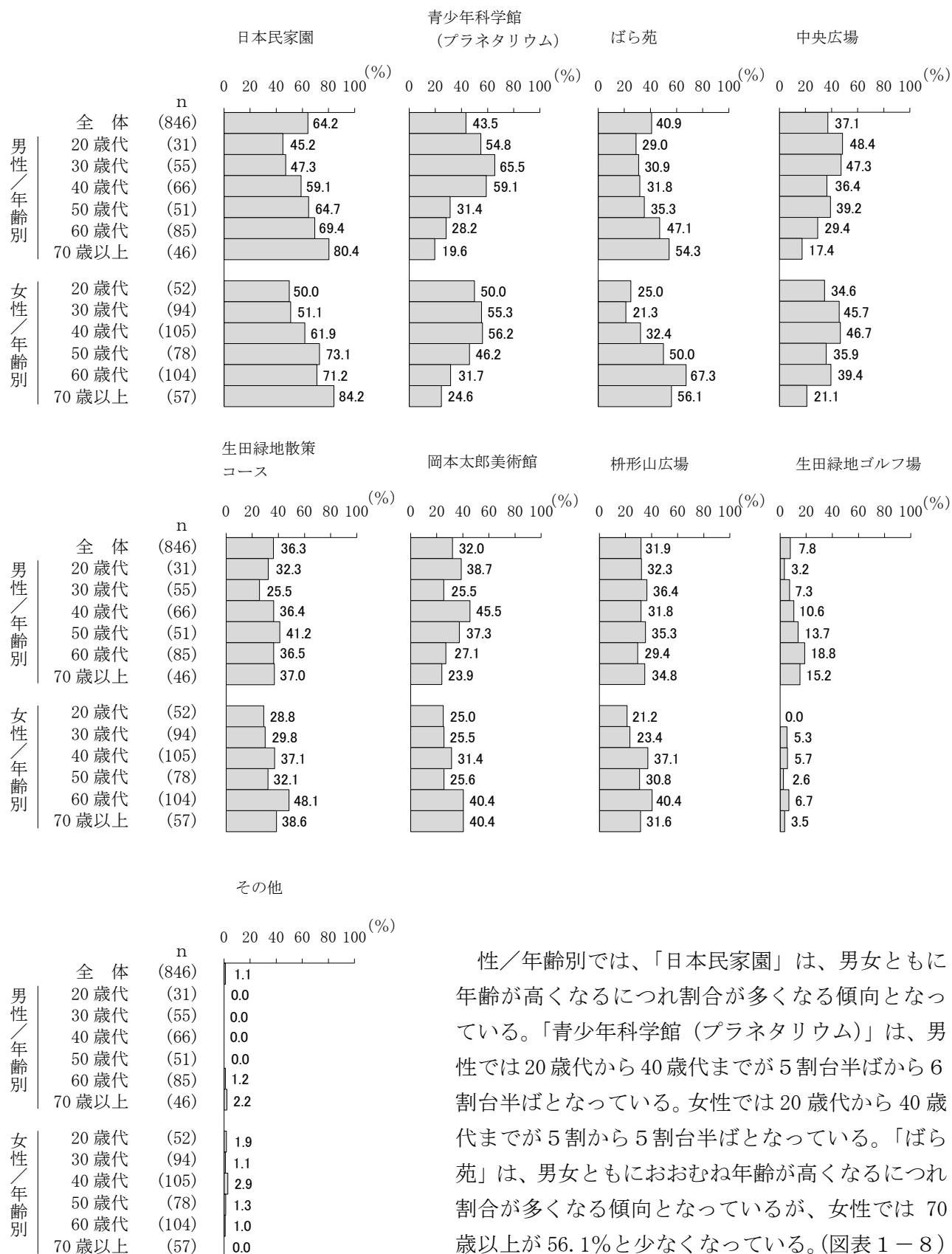
図表1-7 生田緑地に行った場所

(複数回答) n = (846)



生田緑地に行った場所は、「日本民家園」が64.2%と最も多くなっている。次いで、「青少年科学館 (プラネタリウム)」が43.5%、「ばら苑」が40.9%となっている。(図表1-7)

図表1-8 生田緑地に行った場所（性／年齢別）



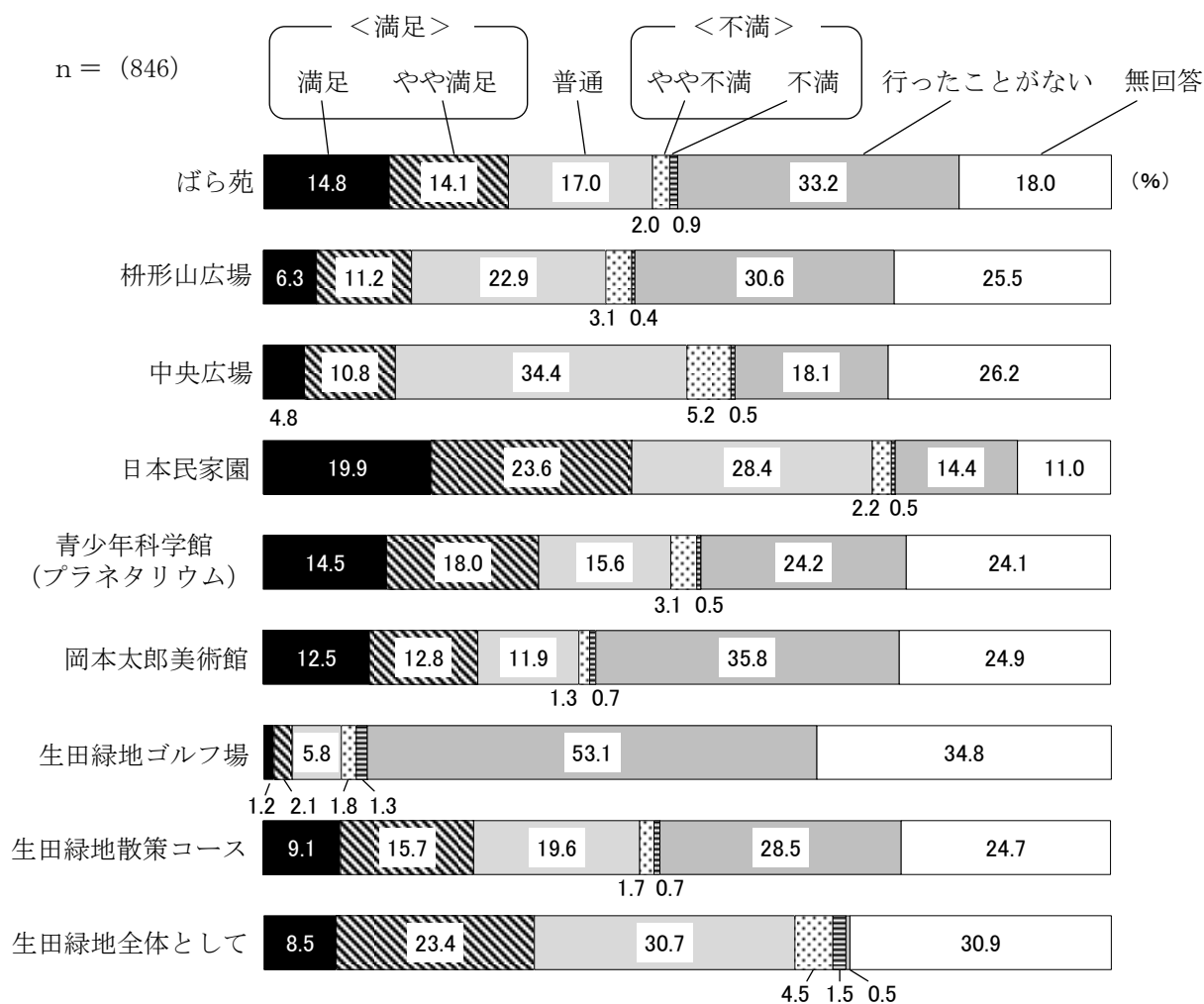
1-4 生田緑地及び緑地内の各施設の満足度

◎＜満足＞は「日本民家園」が43.5%

(生田緑地へ行ったことがあると回答した方にうかがいます。)

問4 生田緑地及び緑地内の各施設にどの程度満足していますか。(○はそれぞれつ)

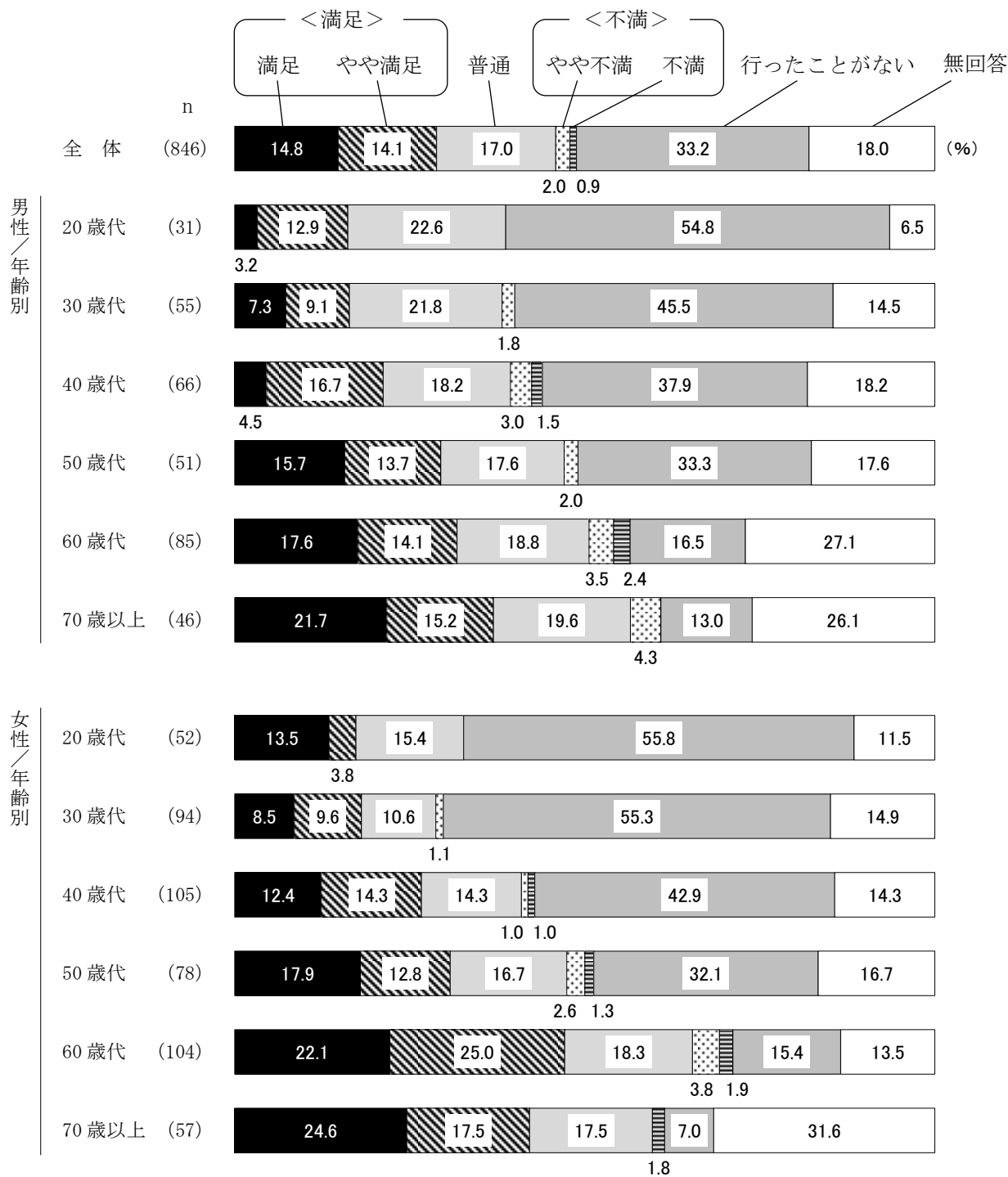
図表1-9 生田緑地及び緑地内の各施設の満足度



生田緑地及び緑地内の各施設の満足度は、「満足」と「やや満足」をあわせた＜満足＞が多いのは、「日本民家園」の43.5%となっている。次いで、「青少年科学館（プラネタリウム）」が32.5%、「ばら苑」が28.9%となっている。（図表1-9）

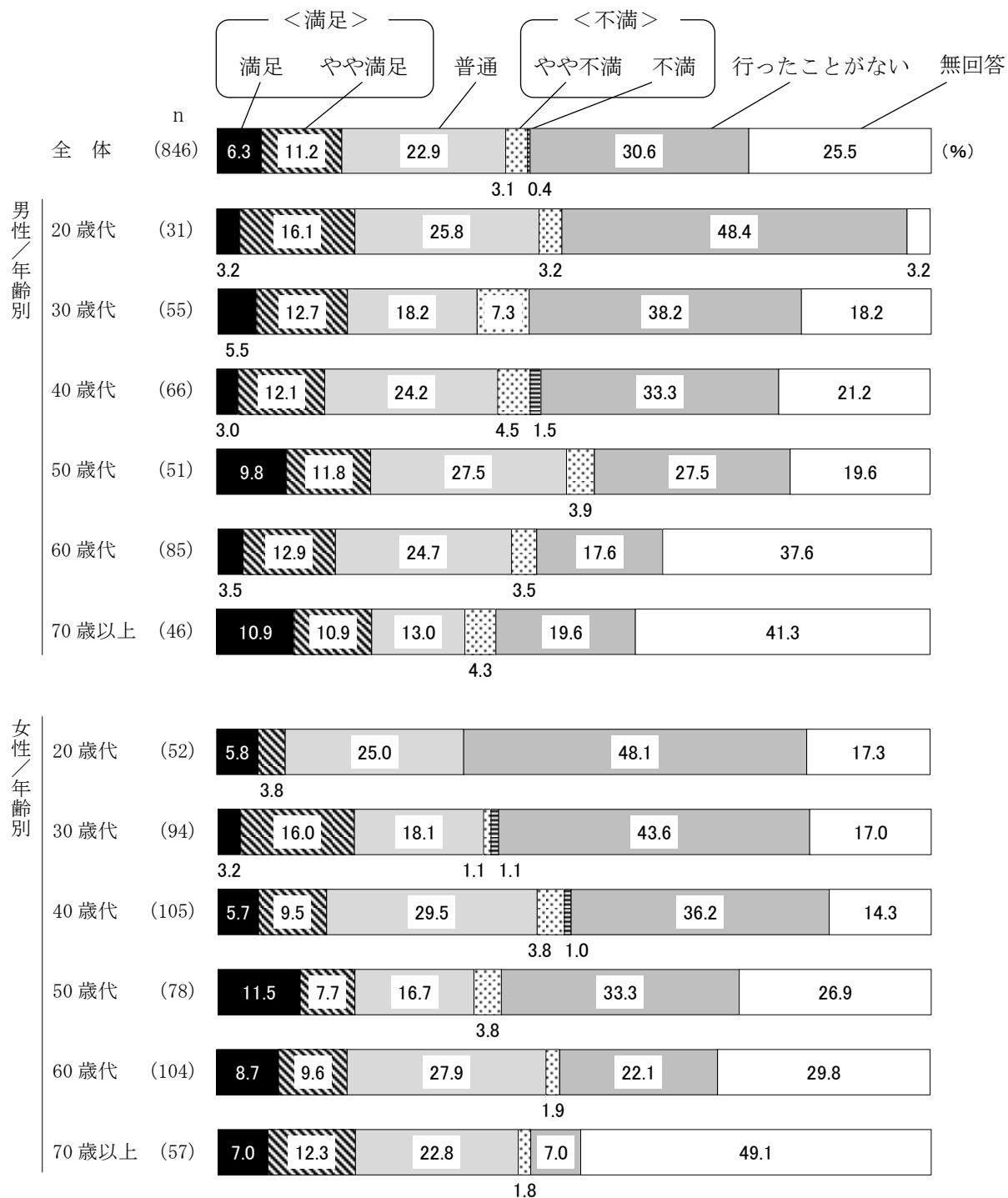
(第1回アンケート)

図表 1-10 生田緑地及び緑地内の各施設の満足度＜ばら苑＞（性／年齢別）



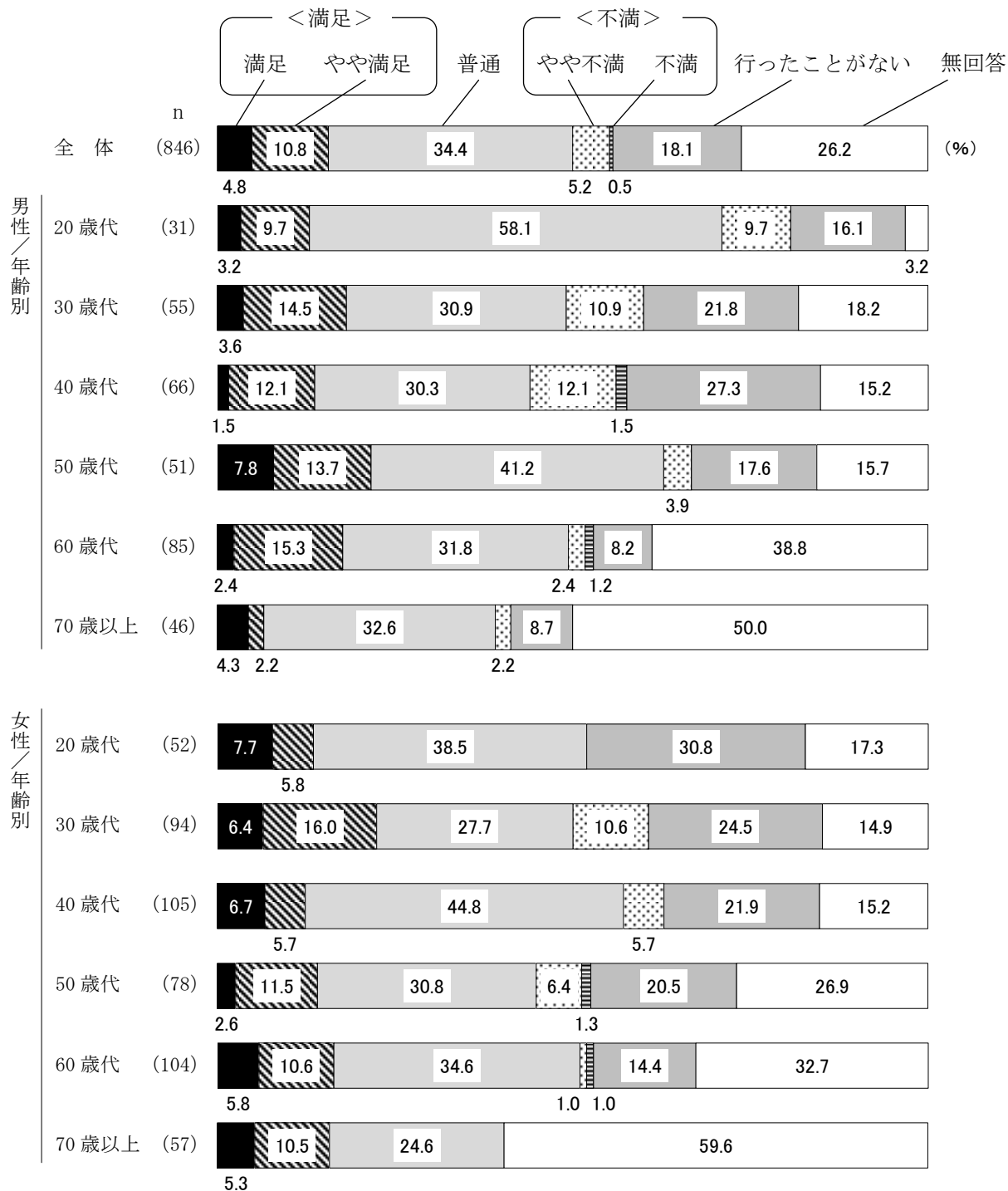
性／年齢別では、「満足」と「やや満足」をあわせた＜満足＞は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっているが、女性では 70 歳以上が 42.1%と少なくなっている。(図表 1-10)

図表1-11 生田緑地及び緑地内の各施設の満足度＜枳形山広場＞（性／年齢別）



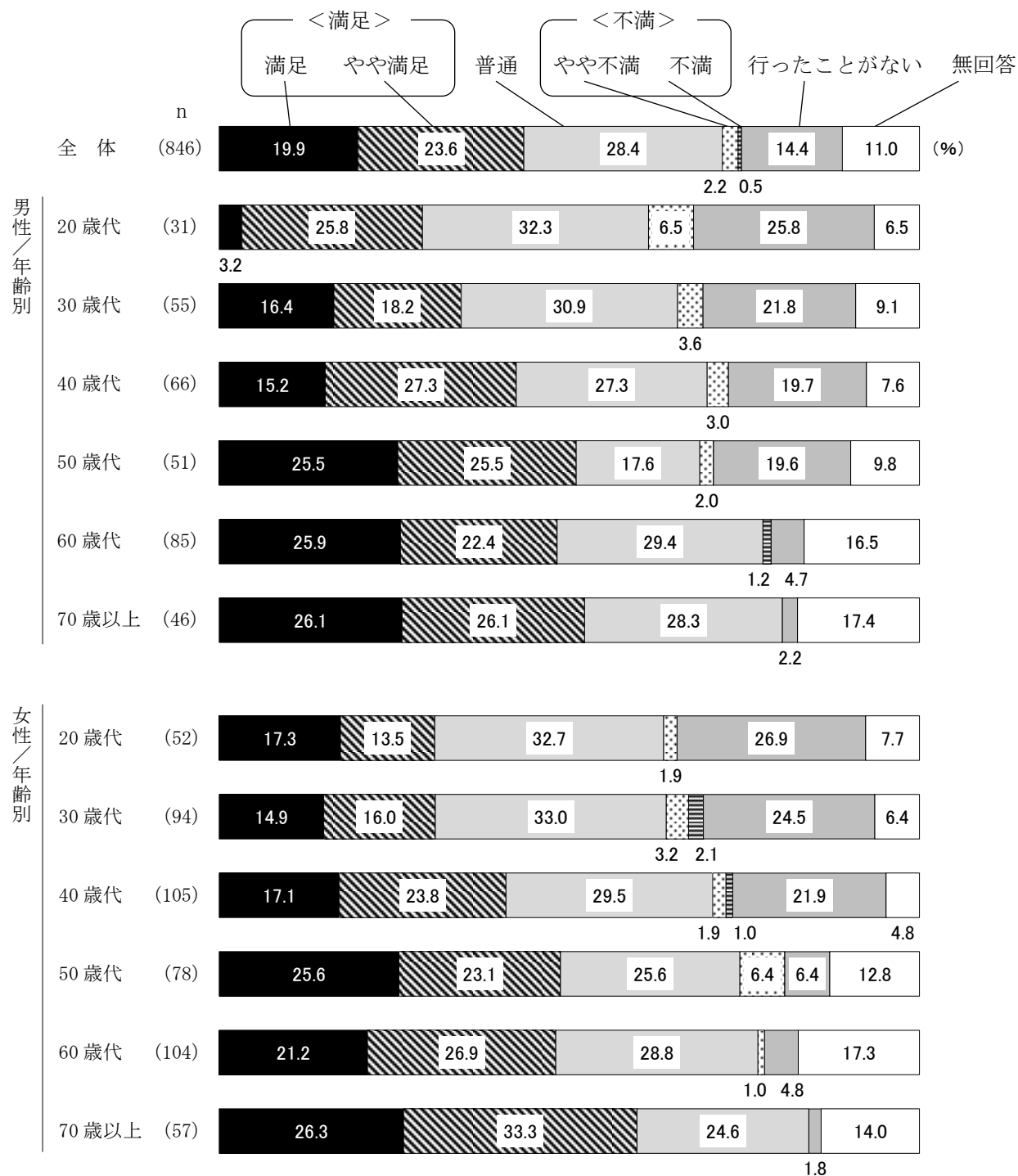
性／年齢別では、「満足」と「やや満足」をあわせた＜満足＞は、男性では20歳代から70歳以上で1割台半ばから2割台前半、女性では30歳代から70歳以上で1割台半ばから1割台後半となっているが、20歳代が9.6%と少なくなっている。(図表1-11)

図表1-12 生田緑地及び緑地内の各施設の満足度＜中央広場＞（性／年齢別）



性／年齢別では、「満足」と「やや満足」をあわせた＜満足＞は、男性では20歳代から60歳代までが1割台半ばから2割台前半となっている。女性では、30歳代が22.4%と多くっており、他の年代では1割台前半から1割台半ばとなっている。(図表1-12)

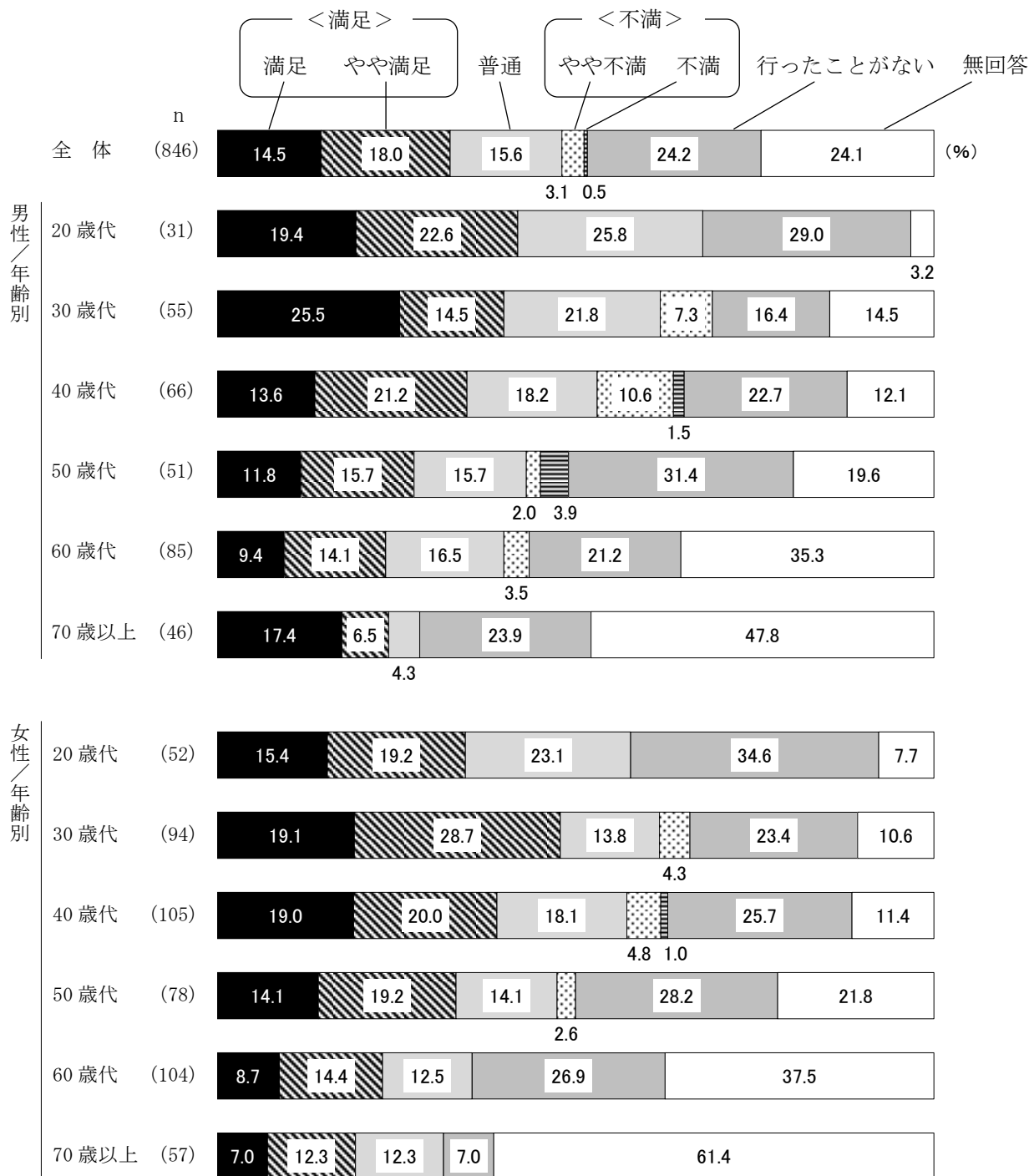
図表 1-13 生田緑地及び緑地内の各施設の満足度＜日本民家園＞（性／年齢別）



性／年齢別では、「満足」と「やや満足」をあわせた＜満足＞は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。男性では70歳以上が52.2%、女性も70歳以上が59.6%と最も多くなっている。（図表1-13）

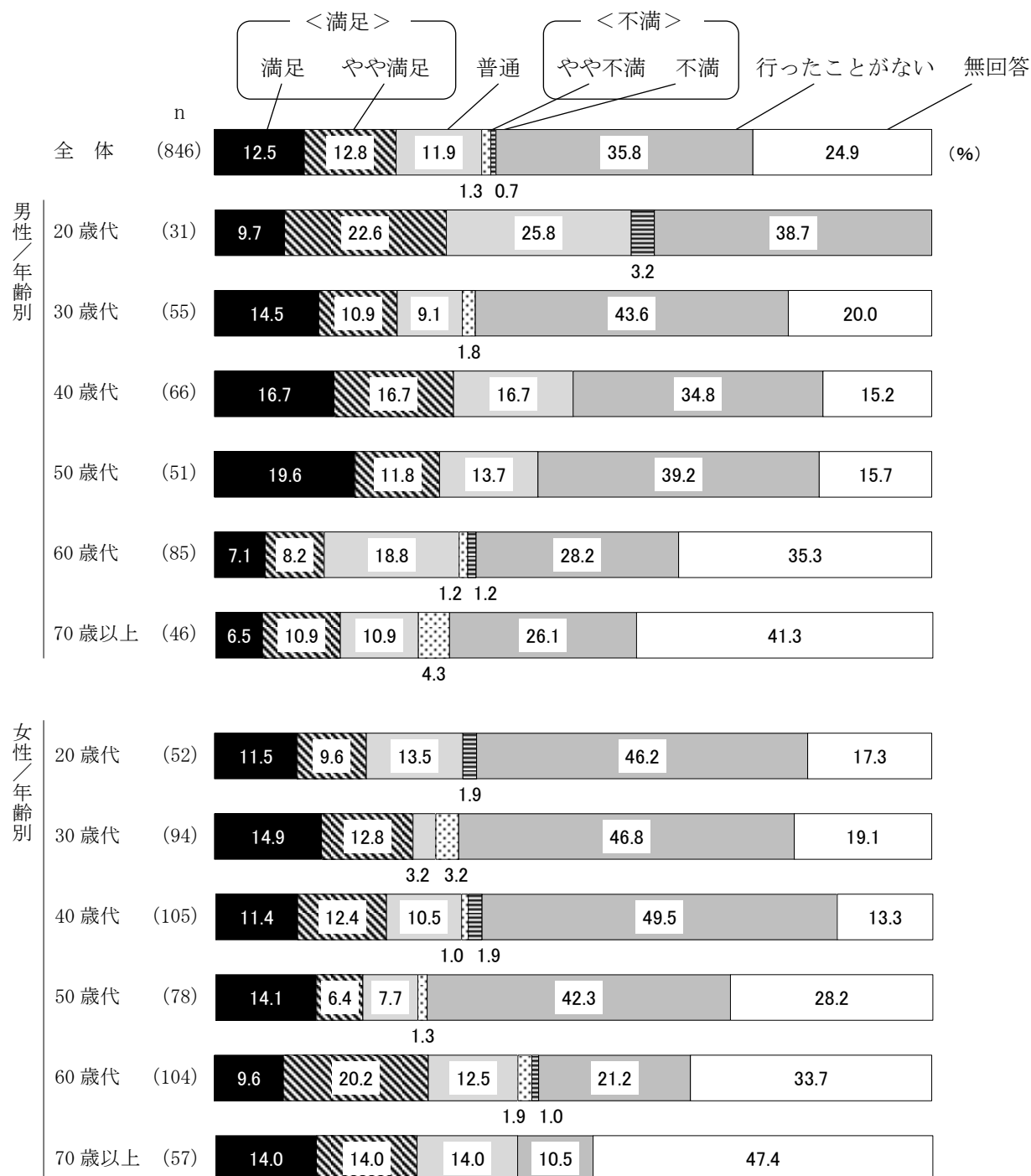
(第1回アンケート)

図表1-14 生田緑地及び緑地内の各施設の満足度＜青少年科学館（プラネタリウム）＞（性／年齢別）



性／年齢別では、「満足」と「やや満足」をあわせた＜満足＞は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。男性では20歳代が42.0%、女性では30歳代が47.8%と最も多くなっている。(図表1-14)

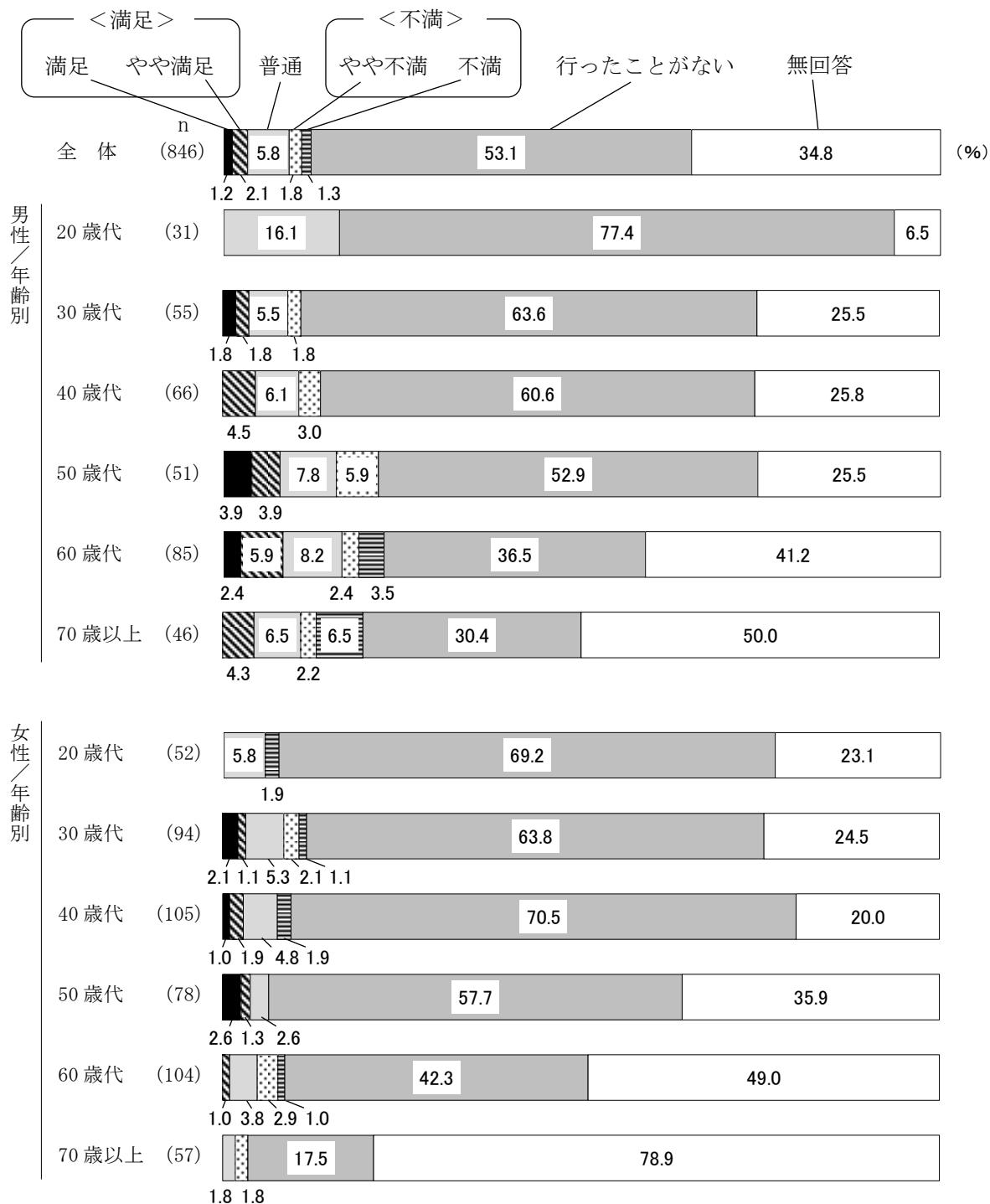
図表 1-15 生田緑地及び緑地内の各施設の満足度＜岡本太郎美術館＞（性／年齢別）



性／年齢別では、「満足」と「やや満足」をあわせた＜満足＞は、男性では20歳代から50歳代までは2割台半ばから3割台半ばとなっているが、60歳代から70歳以上では1割台半ばと少なくなっている。女性では全年代を通して2割台前半から2割台後半となっている。(図表1-15)

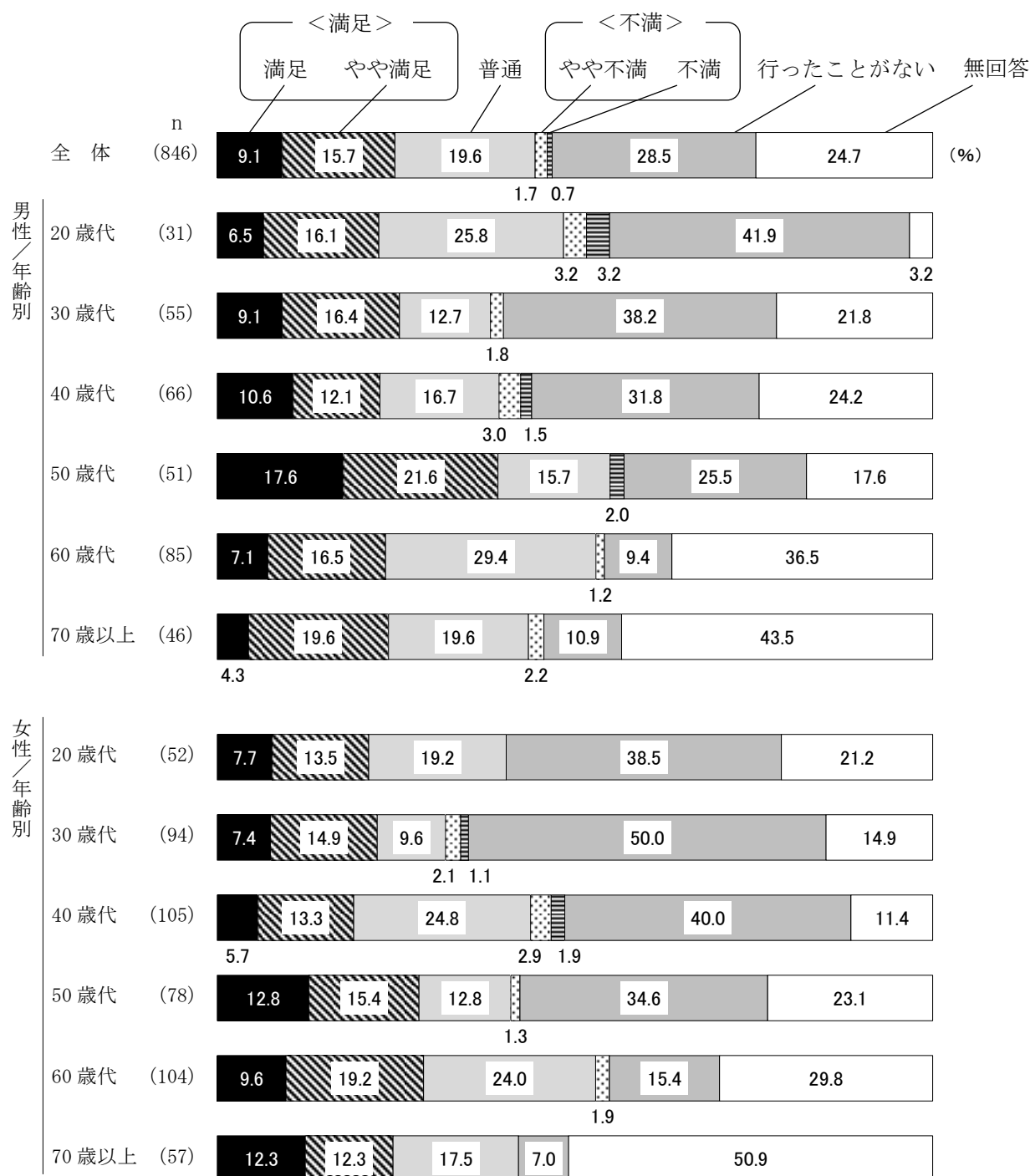
(第1回アンケート)

図表1-16 生田緑地及び緑地内の各施設の満足度＜生田緑地ゴルフ場＞（性／年齢別）



性／年齢別では、「満足」と「やや満足」をあわせた＜満足＞は、男女ともに全ての年代で1割未満となっている。男性では60歳代が8.3%、女性では50歳代が3.9%と最も多くなっている。（図表1-16）

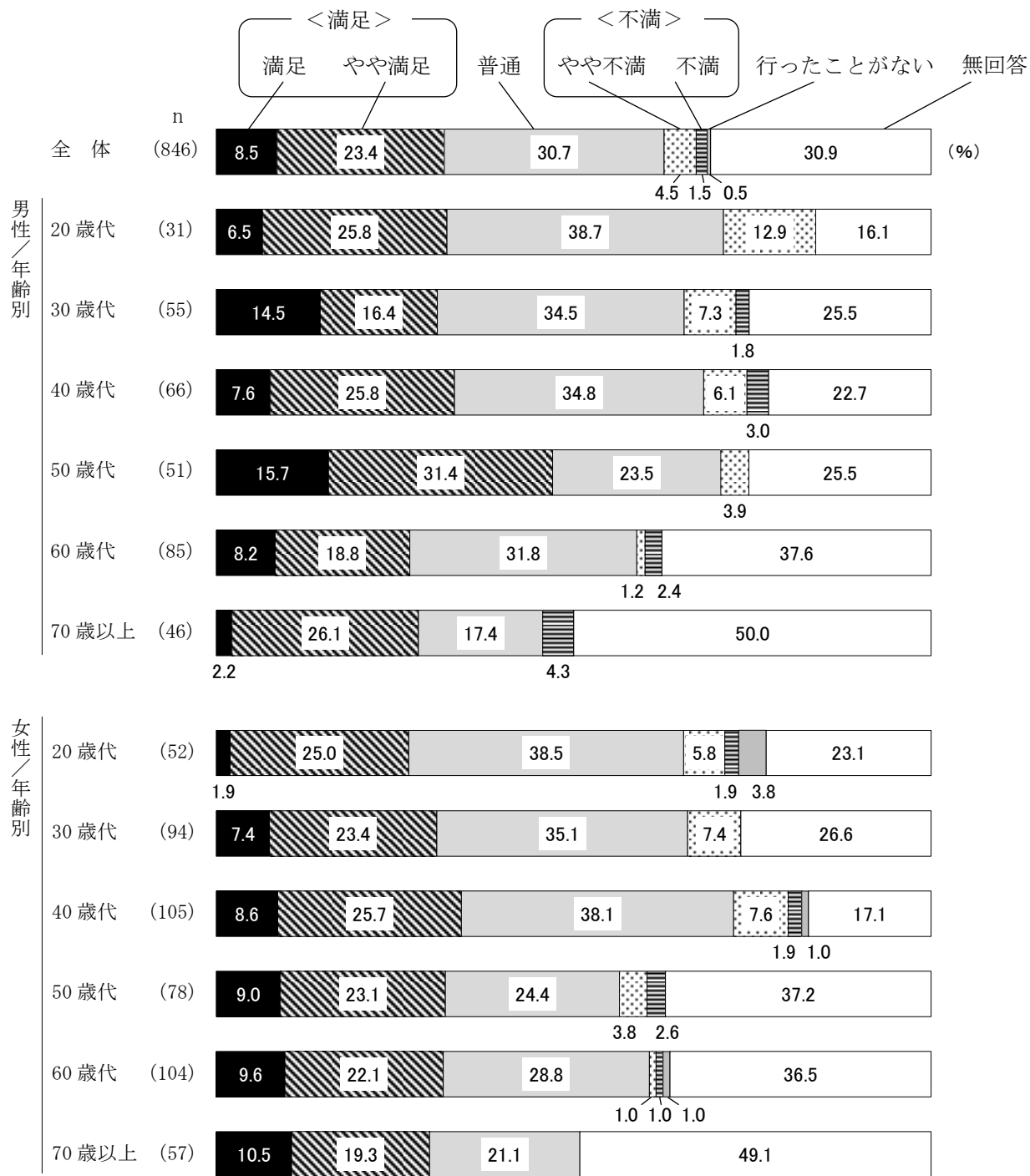
図表 1-17 生田緑地及び緑地内の各施設の満足度＜生田緑地散策コース＞（性／年齢別）



性／年齢別では、「満足」と「やや満足」をあわせた＜満足＞は、男性では50歳代が39.2%と多くっており、他の年代では2割台半ばとなっている。女性では1割台後半から2割台後半となっている。(図表1-17)

(第1回アンケート)

図表1-18 生田緑地及び緑地内の各施設の満足度<生田緑地全体として> (性/年齢別)



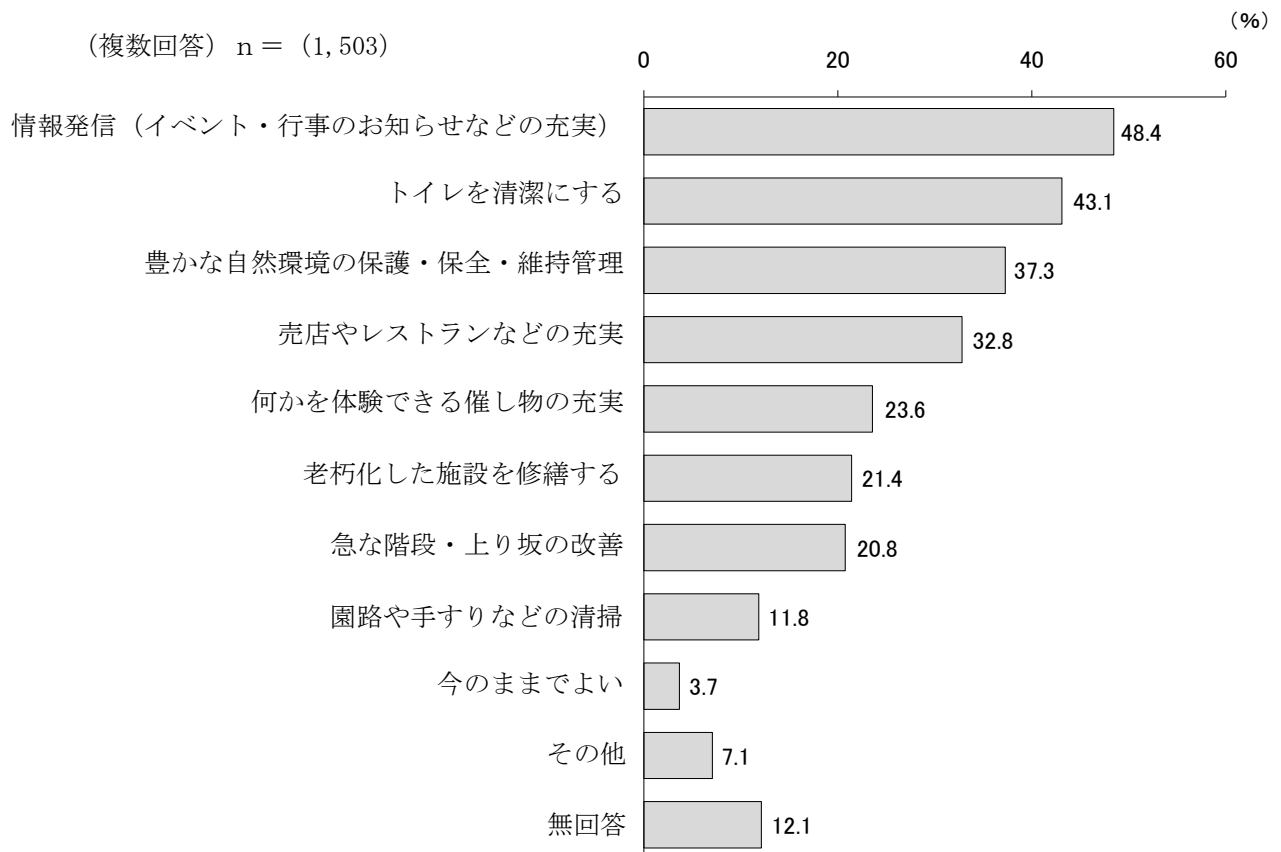
性/年齢別では、「満足」と「やや満足」をあわせた<満足>は、男性では50歳代が47.1%と多くっており、他の年代では2割台半ばから3割台半ばとなっている。女性も2割台半ばから3割台半ばとなっている。(図表1-18)

1-5 生田緑地を快適に利用するための条件

◎「情報発信（イベント・行事のお知らせなどの充実）」が48.4%

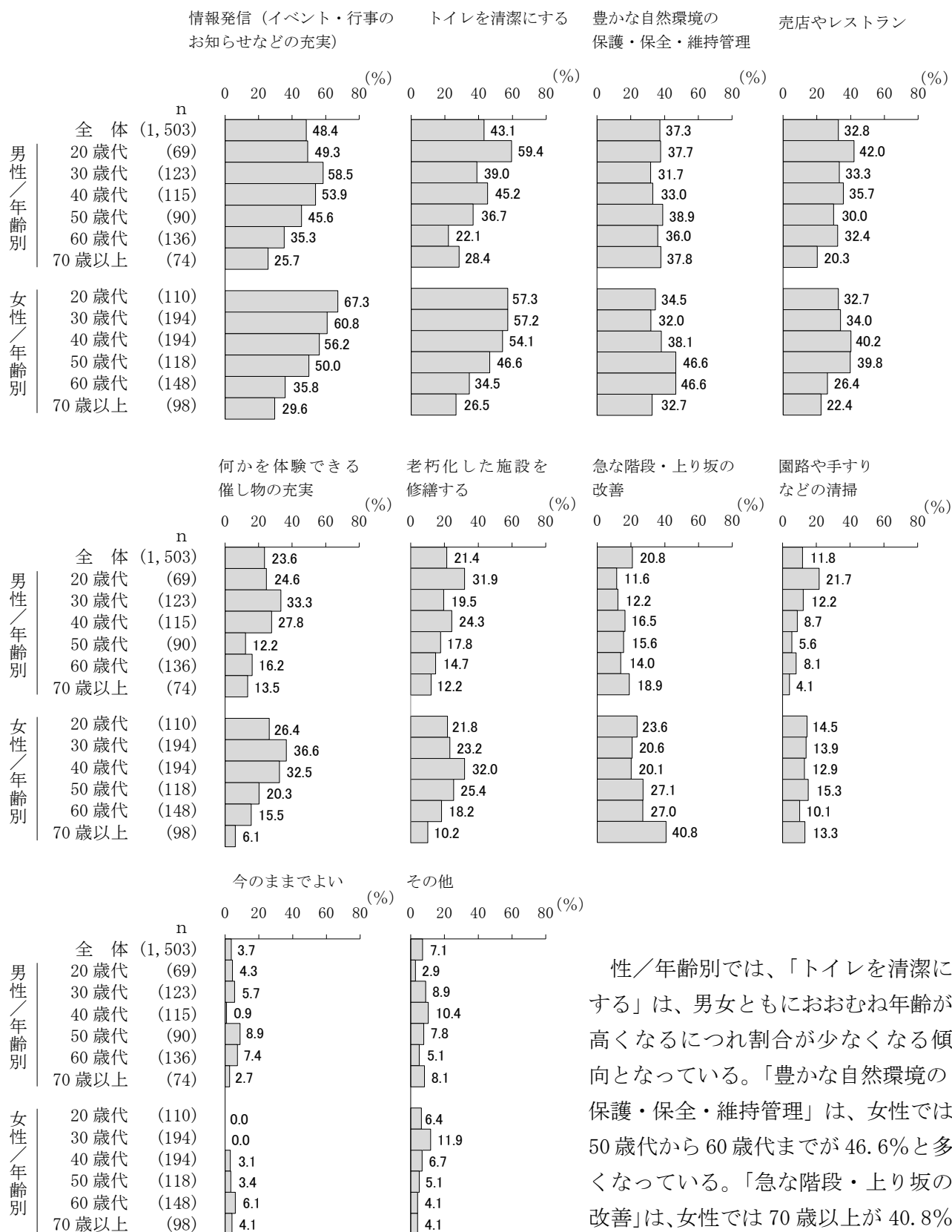
問5 生田緑地を快適に利用してもらうためには、何が必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

図表1-19 生田緑地を快適に利用するための条件



生田緑地を快適に利用するための条件は、「情報発信（イベント・行事のお知らせなどの充実）」が48.4%と最も多くなっている。次いで、「トイレを清潔にする」が43.1%、「豊かな自然環境の保護・保全・維持管理」が37.3%となっている。（図表1-19）

図表1-20 生田緑地を快適に利用するための条件（性／年齢別）



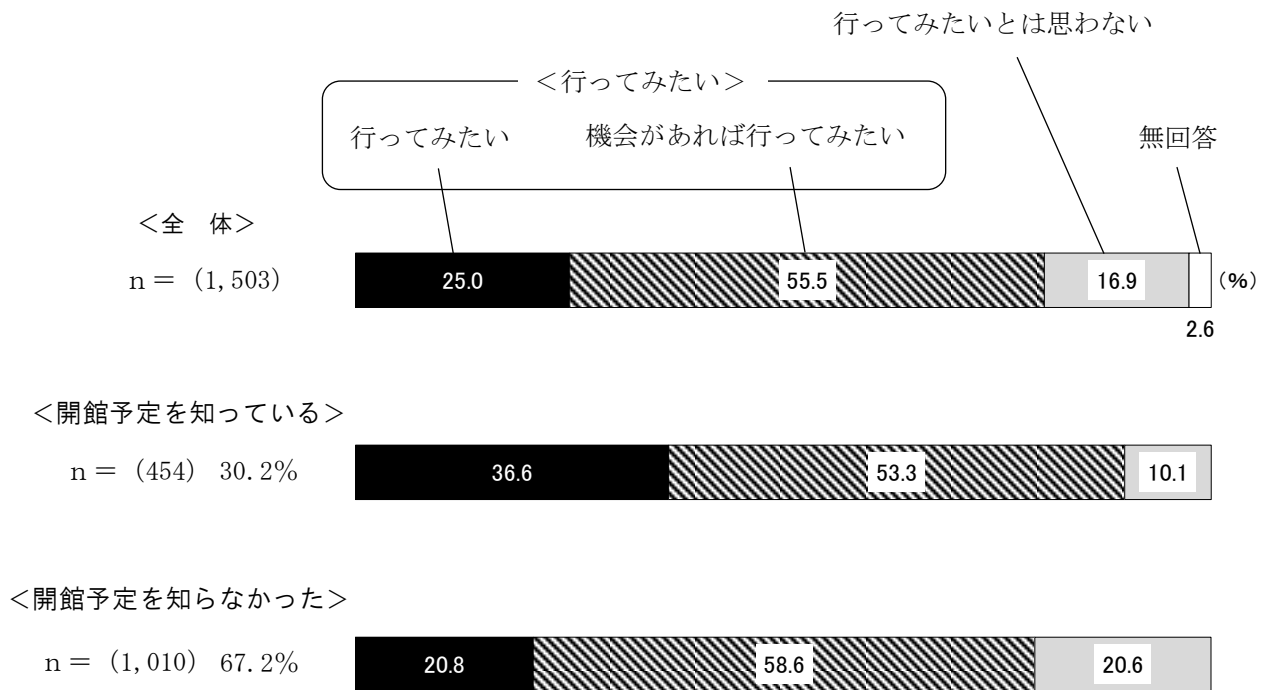
性／年齢別では、「トイレを清潔にする」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。「豊かな自然環境の保護・保全・維持管理」は、女性では50歳代から60歳代までが46.6%と多くなっている。「急な階段・上り坂の改善」は、女性では70歳以上が40.8%と多くなっている。(図表1-20)

1-6 (仮称) 藤子・F・不二雄ミュージアムの認知状況・訪館予定

◎<行ってみたい>は80.5%

問6 平成23年9月、生田緑地に(仮称)藤子・F・不二雄ミュージアムが開館する予定ですが、このことをご存知ですか。また、開館したら、行ってみたいと思いますか。(○は1つだけ)

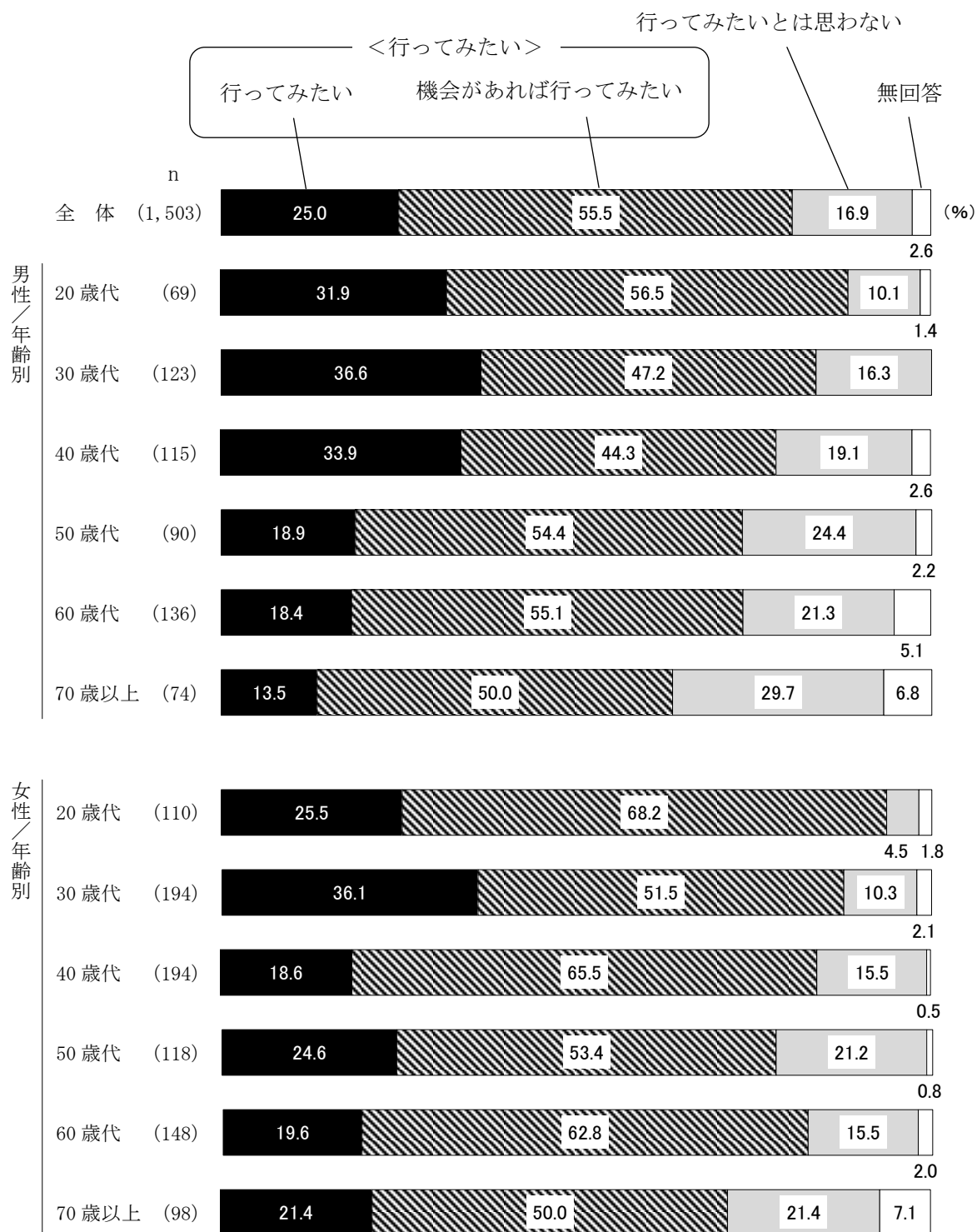
図表1-21 (仮称) 藤子・F・不二雄ミュージアムの認知状況・訪館予定



(仮称) 藤子・F・不二雄ミュージアムの認知状況・訪館予定は、<開館予定を知っている>は30.2%、<開館予定を知らなかった>は67.2%となっている。双方の「行ってみたい」と「機会があれば行ってみたい」を合わせた<行ってみたい>は80.5%となっている。(図表1-21)

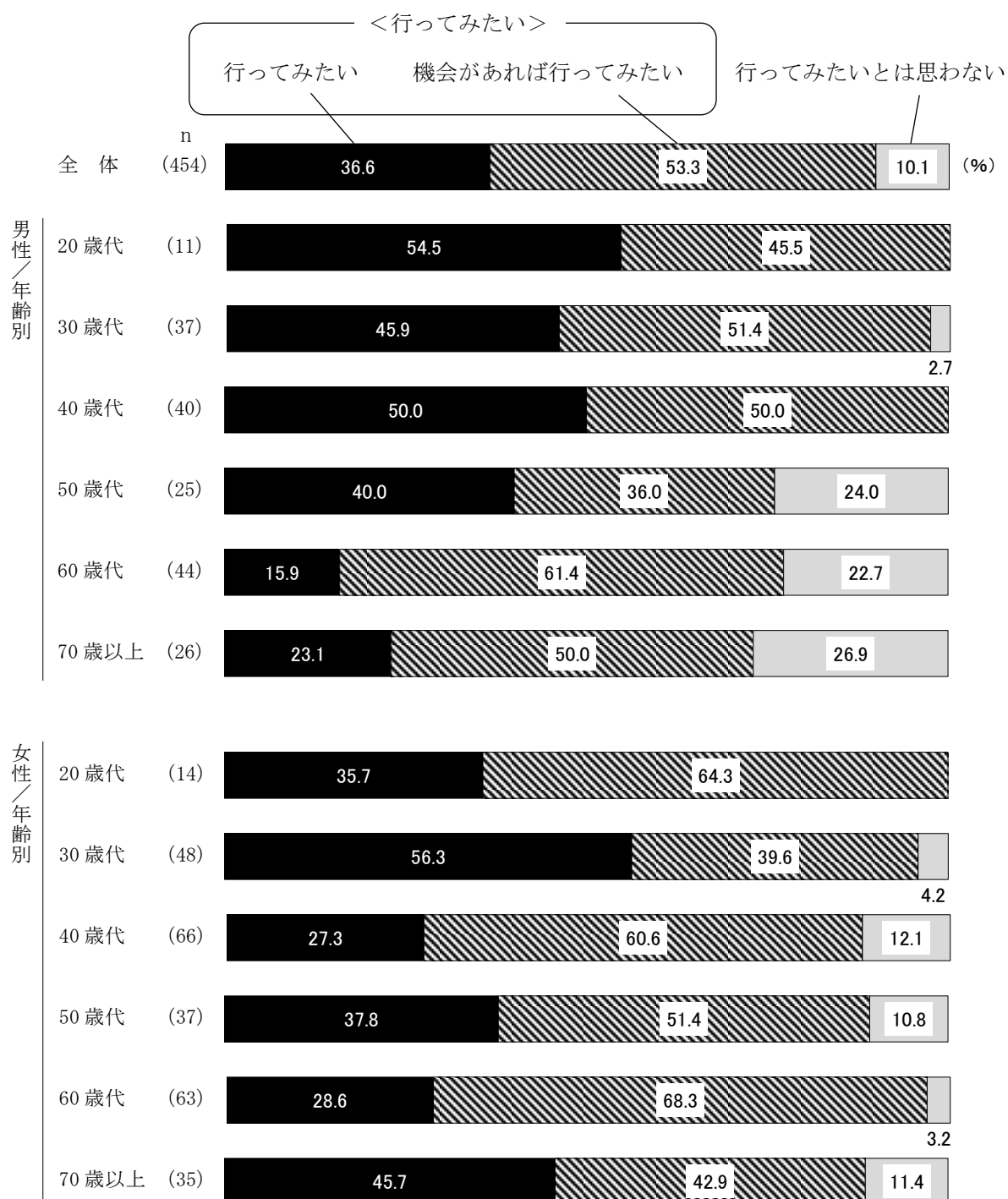
(第1回アンケート)

図表1-22 (仮称) 藤子・F・不二雄ミュージアムの認知状況・訪館予定<全体> (性/年齢別)



性/年齢別では、「行ってみよう」と「機会があれば行ってみよう」を合わせた<行ってみよう>は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。(図表1-22)

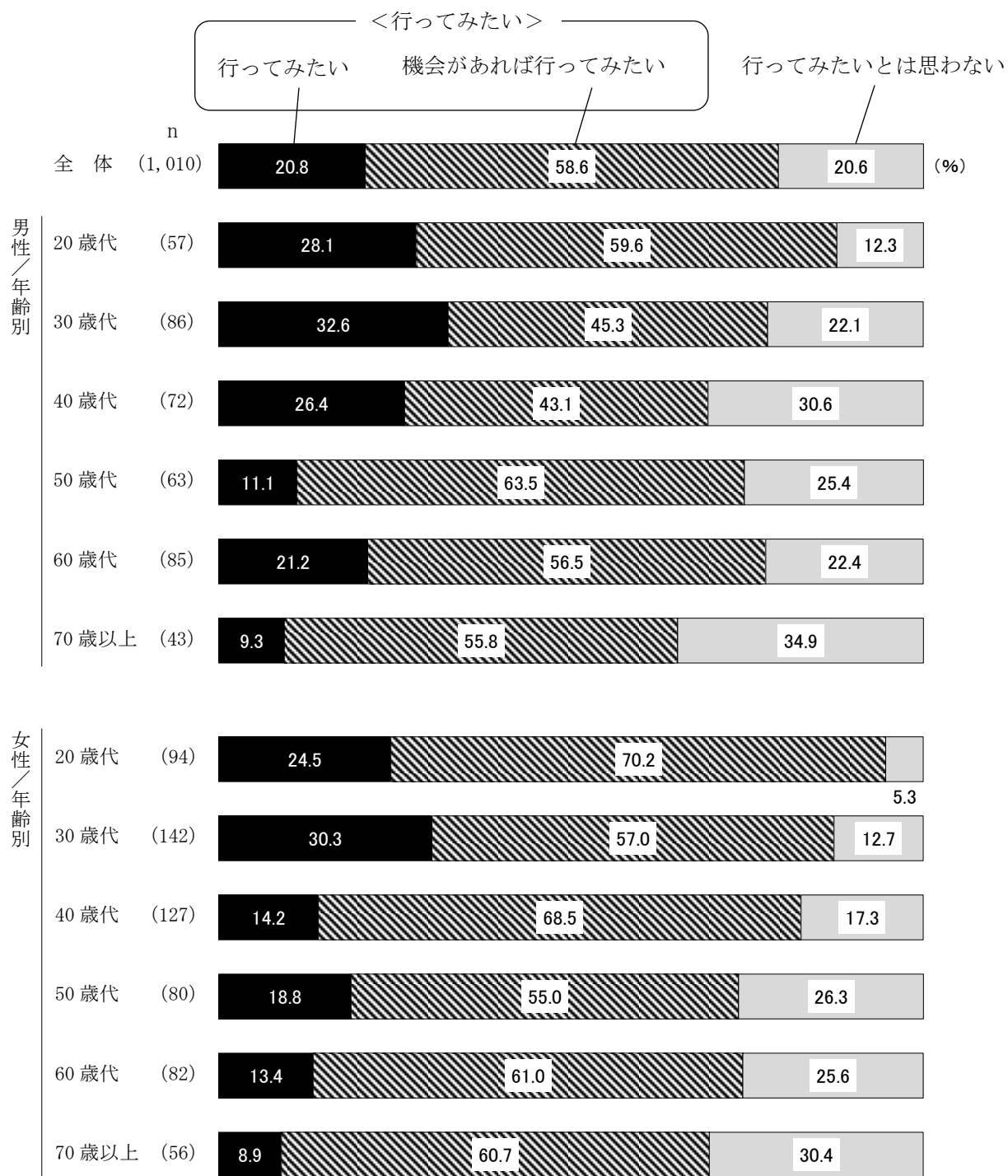
図表1-23 (仮称) 藤子・F・不二雄ミュージアムの認知状況・訪館予定<開館予定を知っている> (性/年齢別)



性/年齢別では、「行ってみたい」と「機会があれば行ってみたい」を合わせた<行ってみたい>は、全体では約9割だが男性では50歳代から70歳以上で7割台半ばとなっている。女性では40歳代と50歳代と70歳以上で8割台後半となっている。(図表1-23)

(第1回アンケート)

図表1-24 (仮称) 藤子・F・不二雄ミュージアムの認知状況・訪館予定<開館予定を知らなかった>(性/年齢別)



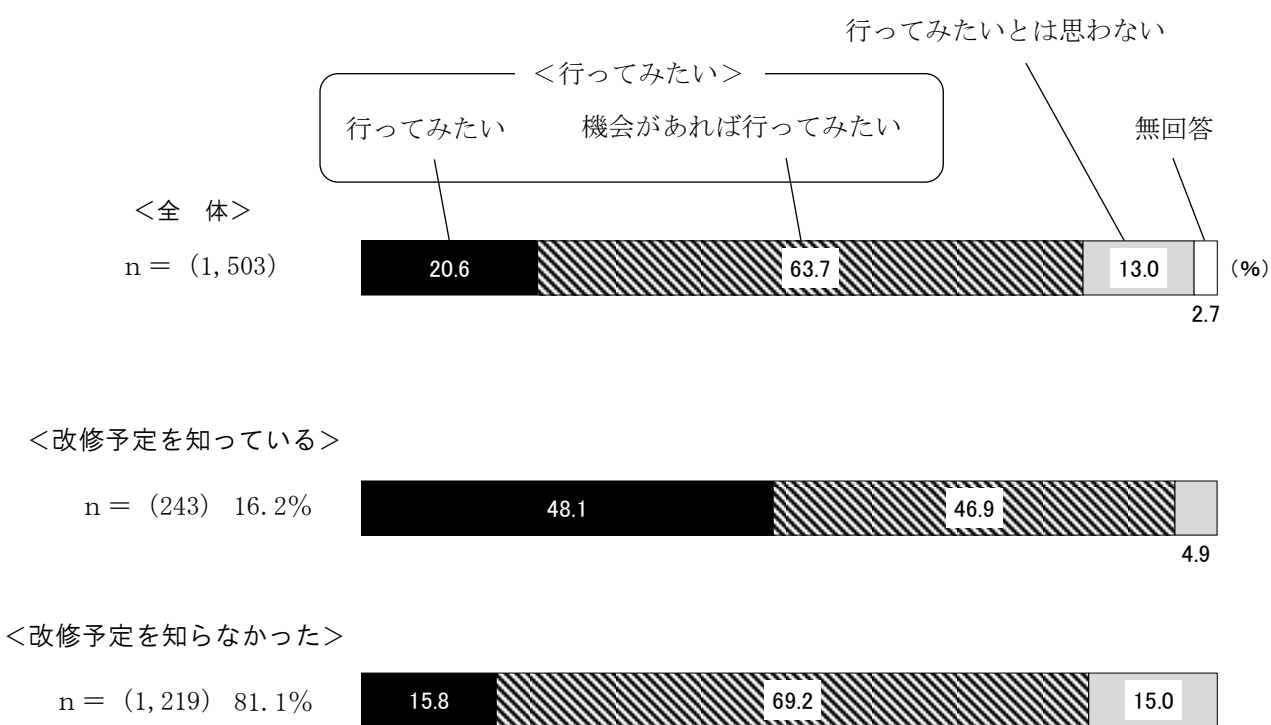
性/年齢別では、「行ってみたい」と「機会があれば行ってみたい」を合わせた<行ってみたい>は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。(図表1-24)

1-7 中央広場・青少年科学館改修の認知状況・訪館予定

◎＜行ってみたい＞は84.3%

問7 生田緑地の中央広場や青少年科学館は、現在工事中で、平成23年度末に新しくなる予定ですが、このことをご存知ですか。また、中央広場や青少年科学館が新しくなったとき、行ってみたいと思いますか。(○は1つだけ)

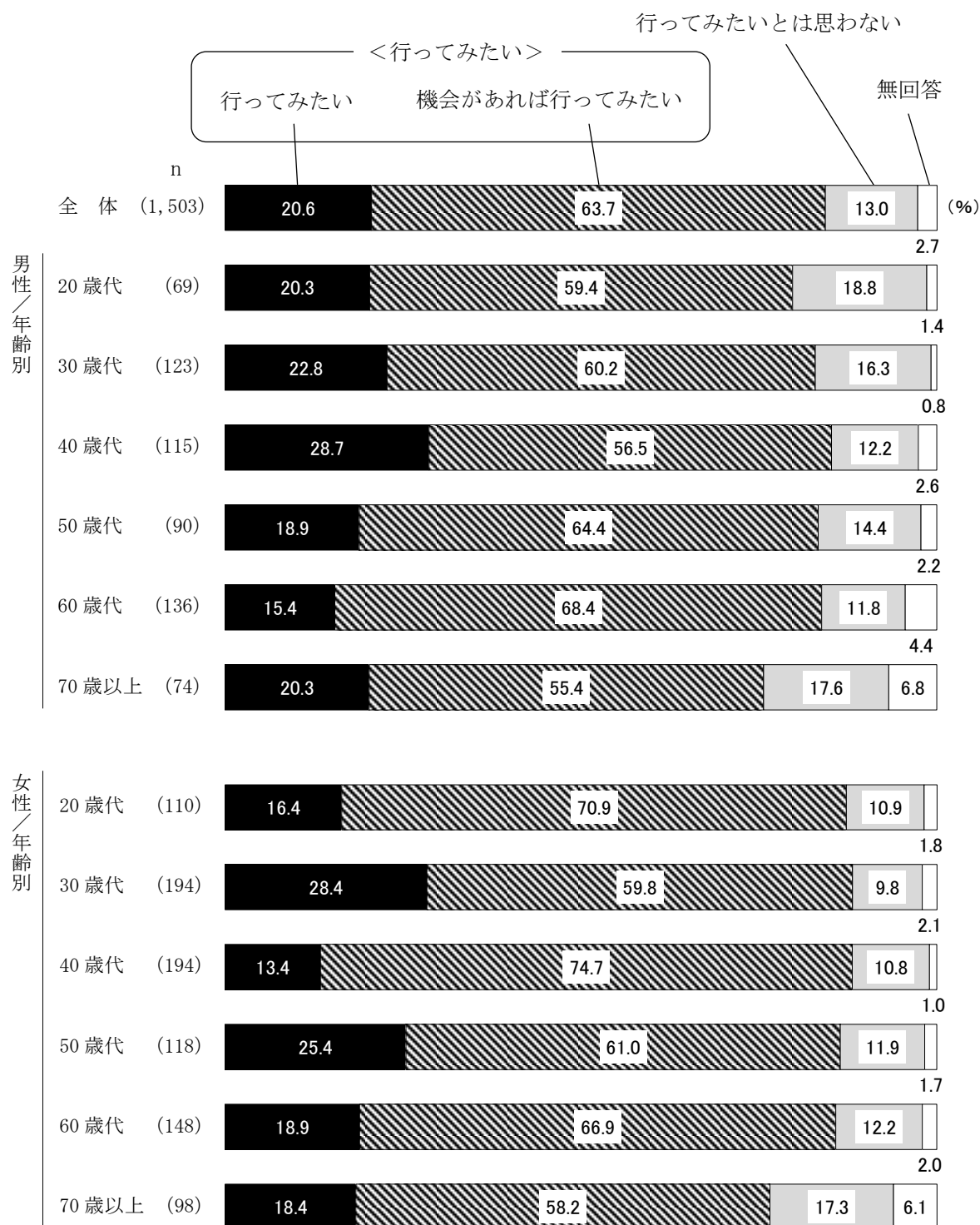
図表1-25 中央広場・青少年科学館改修の認知状況・訪館予定



中央広場・青少年科学館改修の認知状況・訪館予定は、＜改修予定を知っている＞は16.2%、＜改修予定を知らなかった＞は81.1%となっている。双方の「行ってみたい」と「機会があれば行ってみたい」を合わせた＜行ってみたい＞は84.3%となっている。(図表1-25)

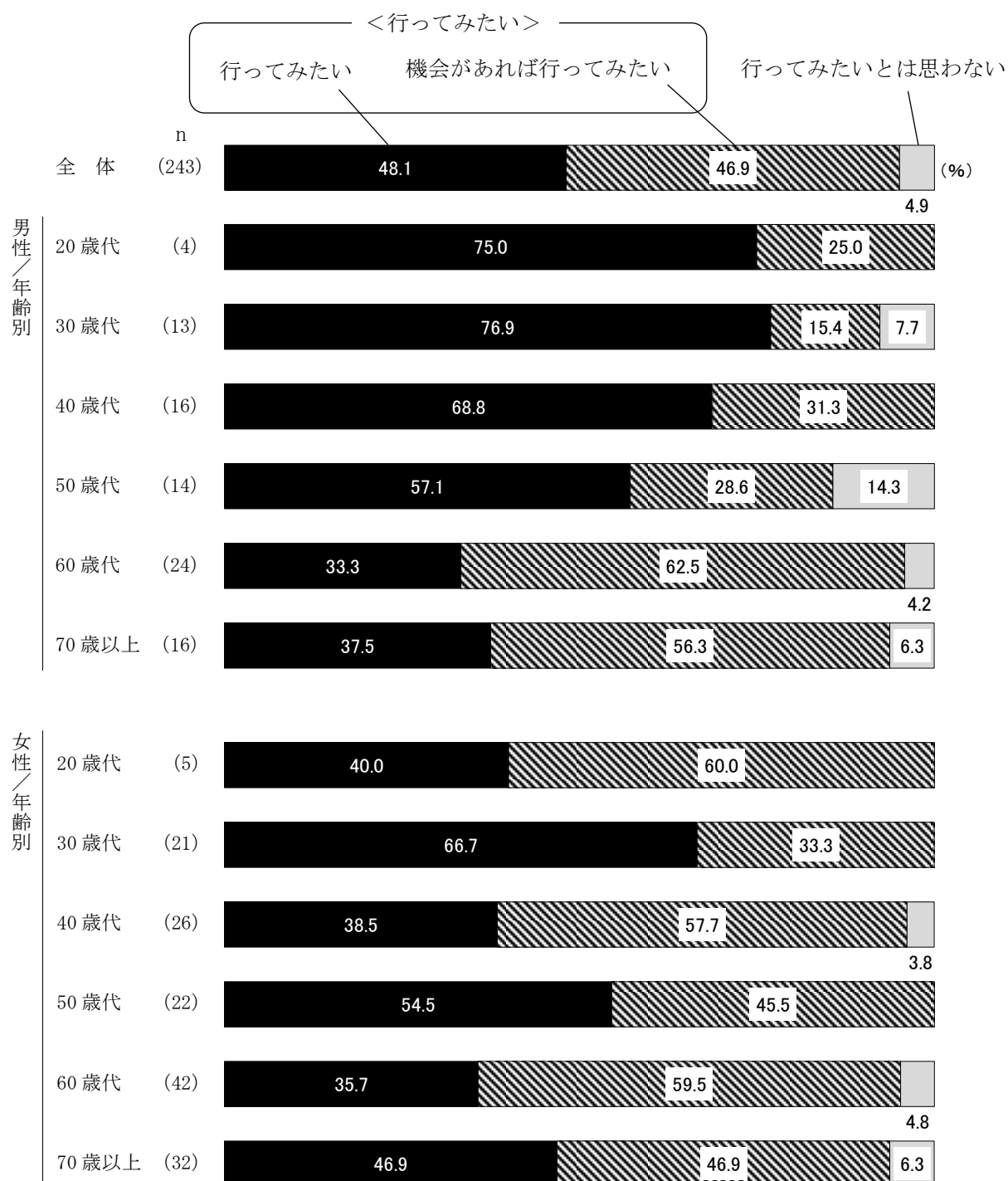
(第1回アンケート)

図表1-26 中央広場・青少年科学館改修の認知状況・訪館予定<全体> (性/年齢別)



性/年齢別では、「行ってみよう」と「機会があれば行ってみよう」を合わせた<行ってみよう>は、男性では30歳代から60歳代までが8割台半ばとなっている。女性では20歳代から60歳代までが8割台半ばから8割台後半となっている。(図表1-26)

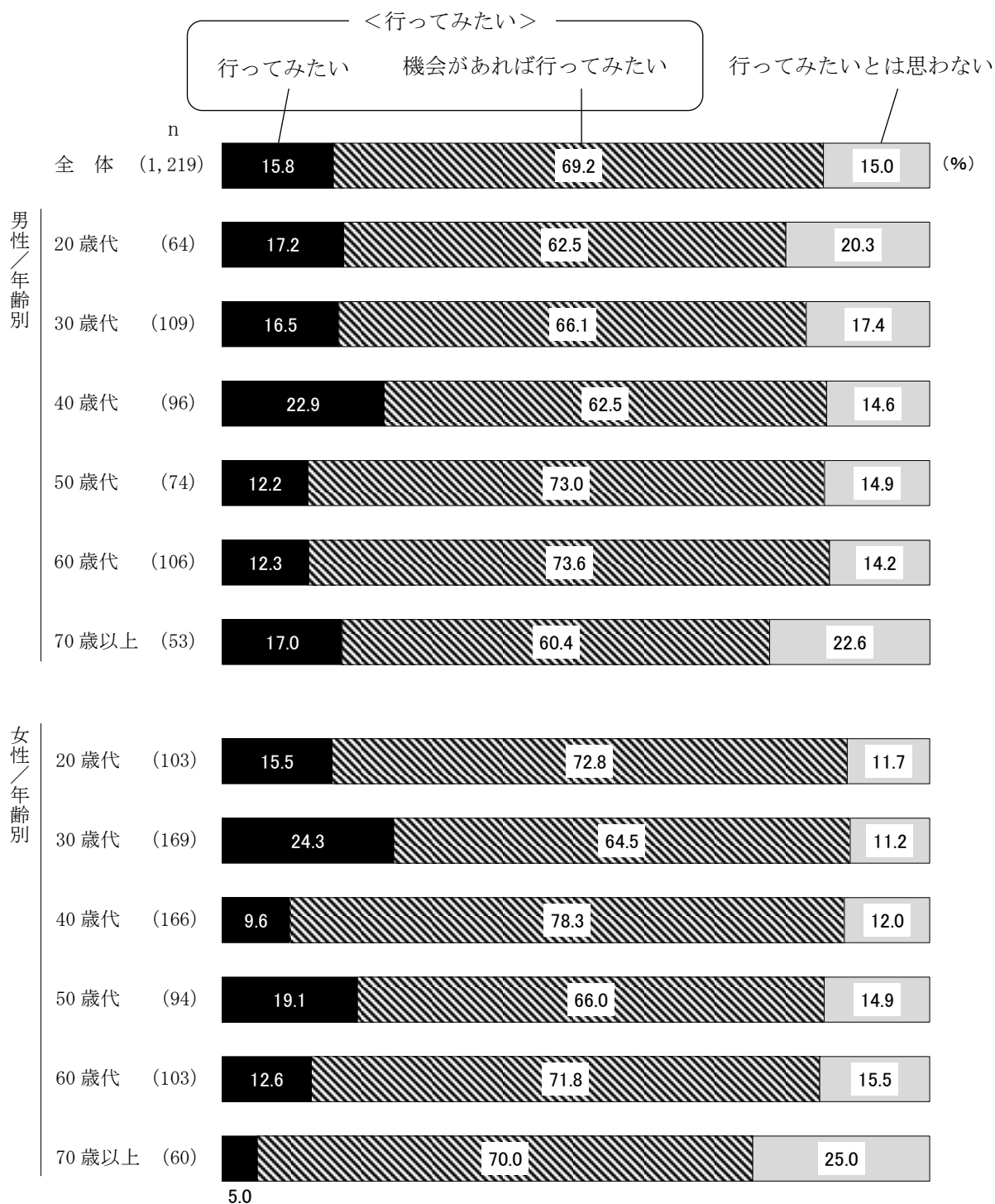
図表1-27 中央広場・青少年科学館改修の認知状況・訪館予定<改修予定を知っている> (性/年齢別)



性/年齢別では、「行ってみたいとは思わない」は、「行ってみたい」と「機会があれば行ってみたい」を合わせた<行ってみたい>は、男性では50歳代が85.7%と最も少なくなっている。女性では40歳代と60歳代と70歳以上で9割台半ばとなっている。(図表1-27)

(第1回アンケート)

図表1-28 中央広場・青少年科学館改修の認知状況・訪館予定<改修予定を知らなかった>(性/年齢別)



性/年齢別では、「行ってみたい」と「機会があれば行ってみたい」を合わせた<行ってみたい>は、男性では30歳代から60歳代までが8割台半ばとなっている。女性では20歳代から60歳代までが8割台半ばから8割台後半となっている。(図表1-28)

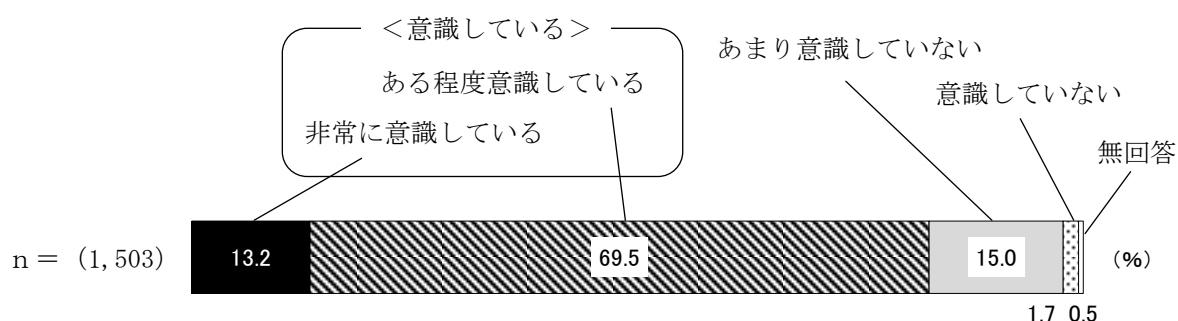
2 地球温暖化防止について

2-1 日常生活における地球温暖化防止への意識状況

◎＜意識している＞は82.7%

問8 日常生活の中で、地球温暖化防止について意識していますか。(○は1つだけ)

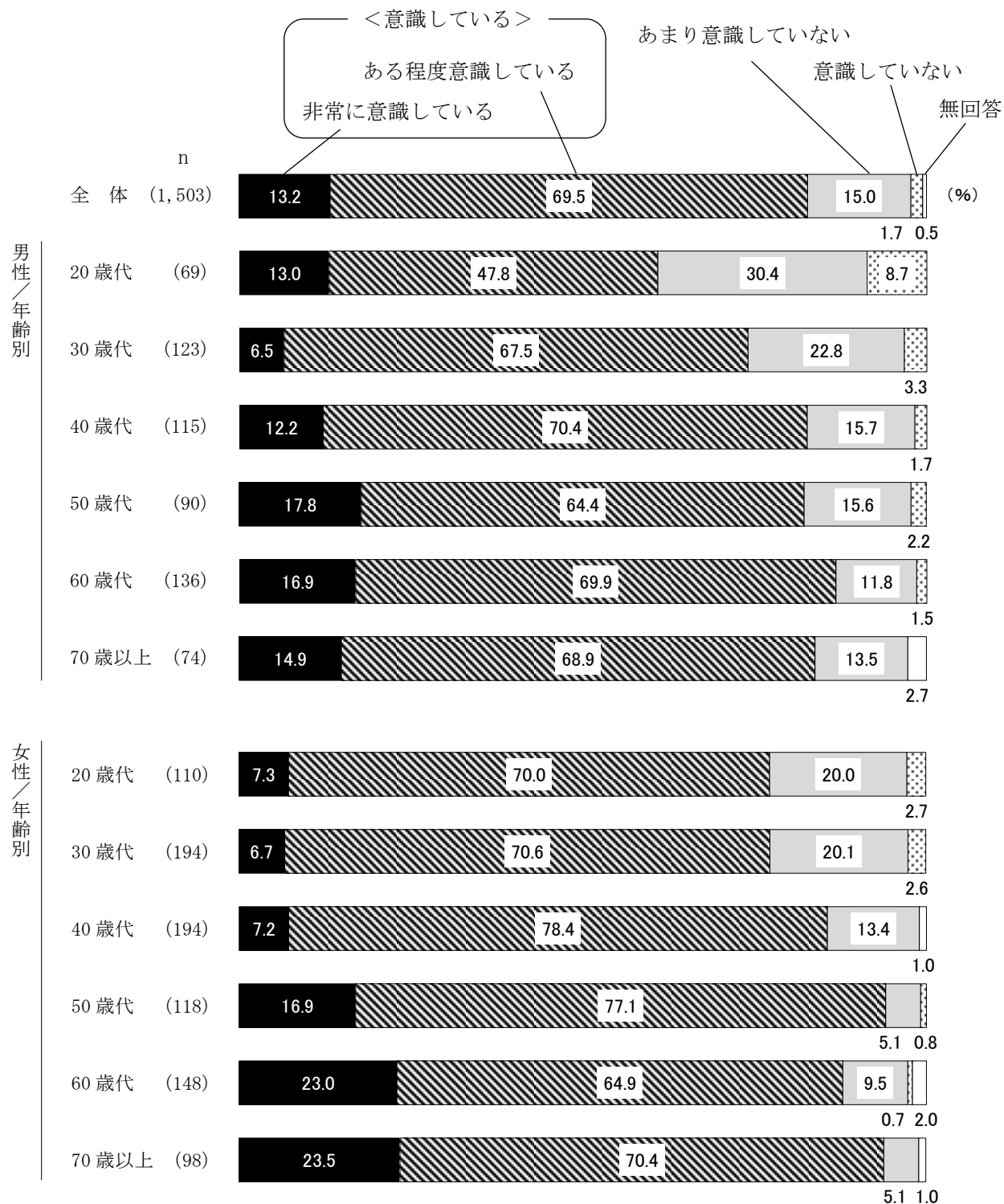
図表2-1 日常生活における地球温暖化防止への意識状況



日常生活における地球温暖化防止への意識状況は、「非常に意識している」(13.2%)と「ある程度意識している」(69.5%)をあわせた＜意識している＞が82.7%となっている。(図表2-1)

(第1回アンケート)

図表2-2 日常生活における地球温暖化防止への意識状況（性／年齢別）



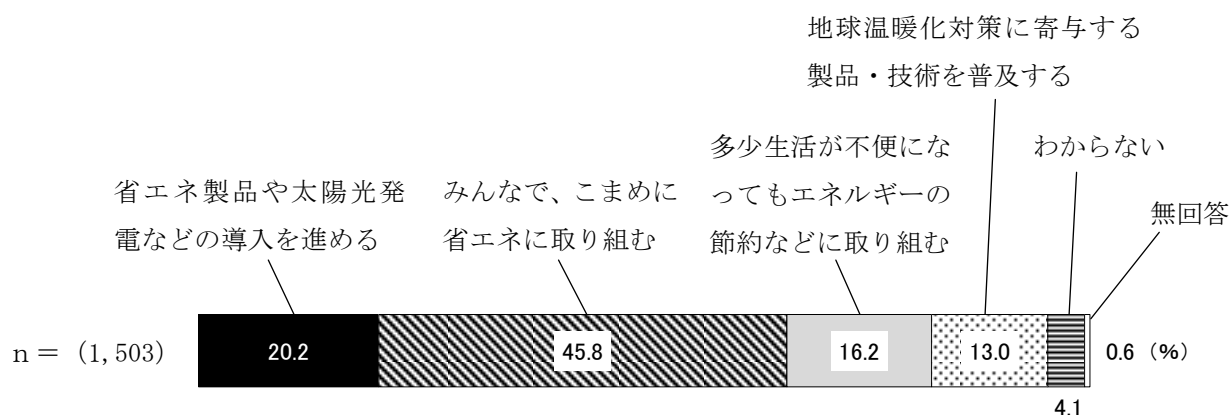
性／年齢別では、「非常に意識している」と「ある程度意識している」をあわせた＜意識している＞は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。（図表2-2）

2-2 日常生活の中ですべき取り組み

◎「みんなで、こまめに省エネに取り組む」が45.8%

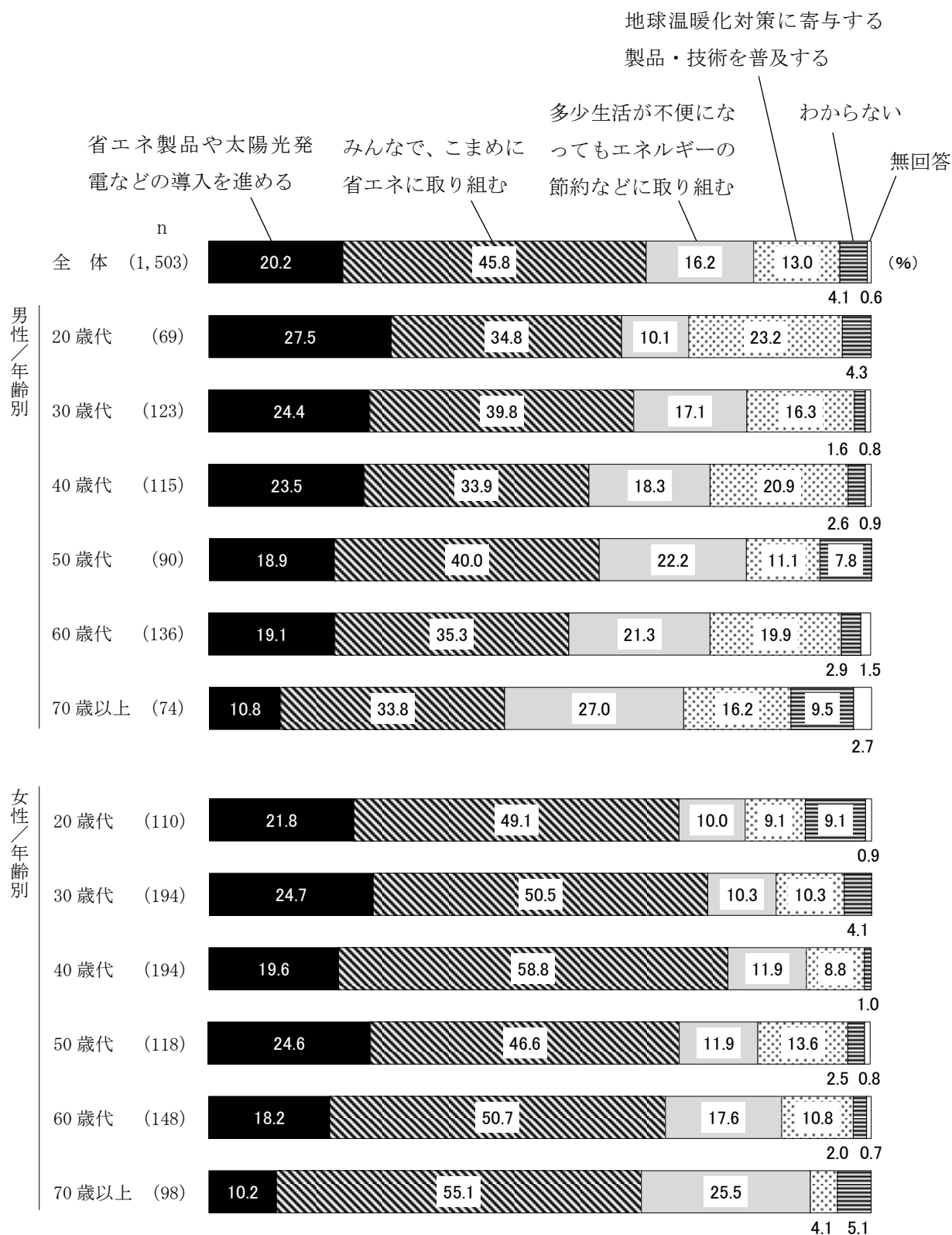
問9 地球温暖化対策のために、日常生活の中でどのような取り組みをすればよいか、あなたの考えに近いものを選んでください。(○は1つだけ)

図表2-3 日常生活の中ですべき取り組み



日常生活の中ですべき取り組みは、「みんなで、こまめに省エネに取り組む」が45.8%、「省エネ製品や太陽光発電などの導入を進める」が20.2%、「多少生活が不便になってもエネルギーの節約などに取り組む」が16.2%となっている。(図表2-3)

図表2-4 日常生活の中ですべき取り組み（性／年齢別）



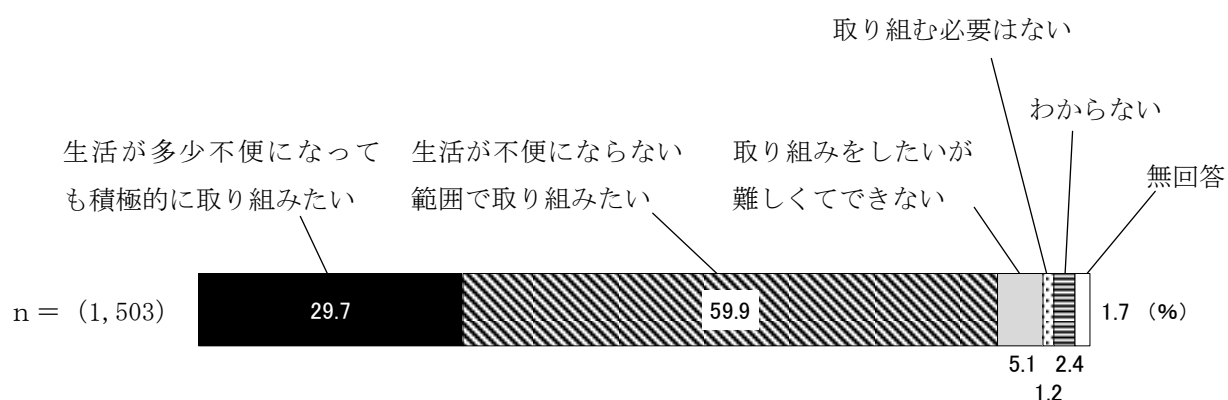
性／年齢別では、「みんなで、こまめに省エネに取り組む」は、いずれの年齢でも男性より女性の方が多くなっている。「多少生活が不便になってもエネルギーの節約などに取り組む」、「地球温暖化対策に寄与する製品・技術を普及する」は、おおむね女性より男性の方が多くなっている。
(図表2-4)

2-3 個人が日常生活で行う取り組みについての意識状況

◎「生活が不便にならない範囲で取り組みたい」が59.9%

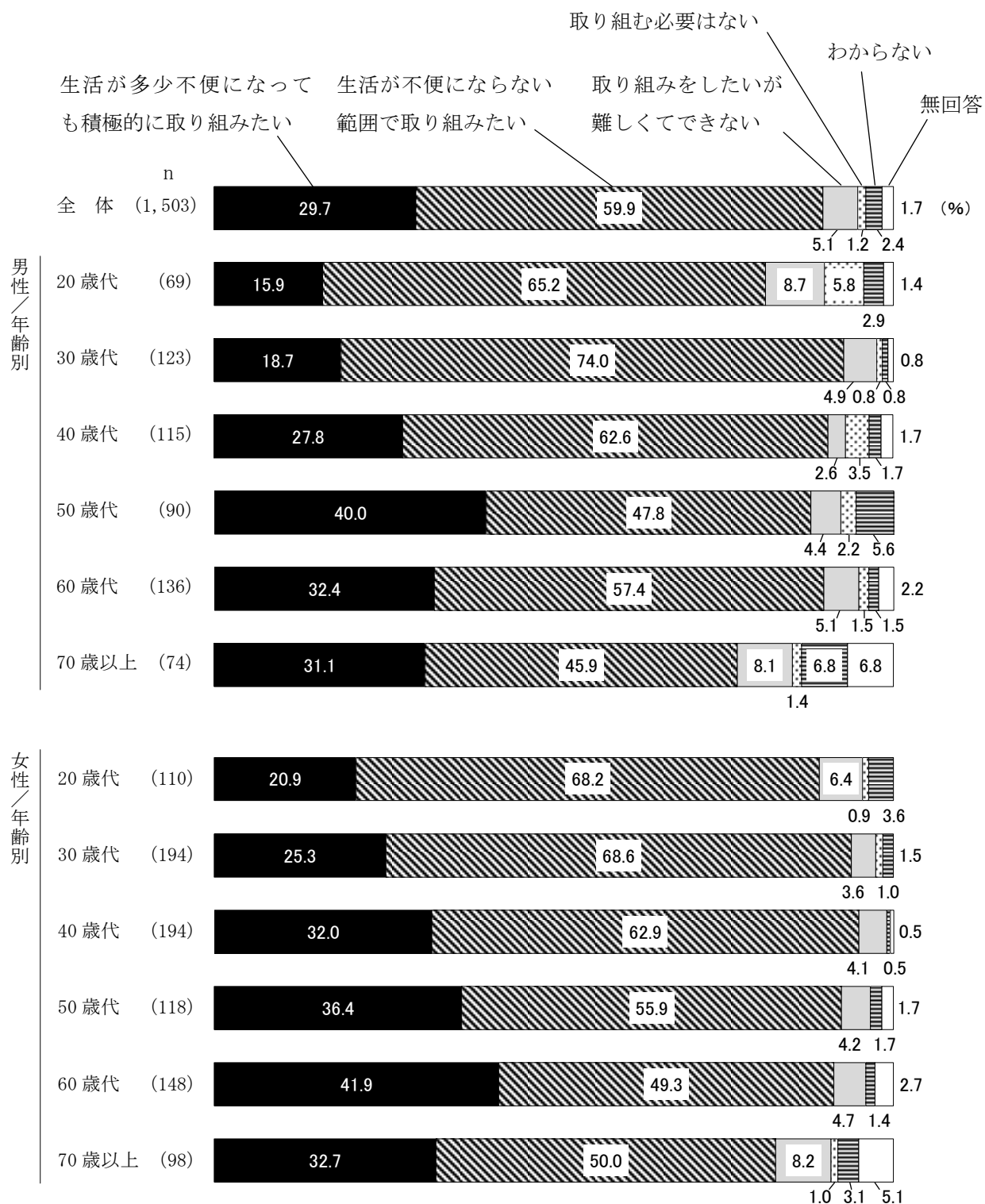
問10 地球温暖化防止のために個人が日常生活で行う取り組みについて、あなたの考えにもっとも近いものを選んでください。(○は1つだけ)

図表2-5 個人が日常生活で行う取り組みについての意識状況



個人が日常生活で行う取り組みについての意識状況は、「生活が不便にならない範囲で取り組みたい」が59.9%、「生活が多少不便になっても積極的に取り組みたい」が29.7%、「取り組みをしたいが難しくてできない」が5.1%となっている。(図表2-5)

図表2-6 個人が日常生活で行う取り組みについての意識状況（性／年齢別）



性／年齢別では、「生活が多少不便になっても積極的に取り組みたい」は、おおむね男性より女性の方が多くなっている。男性では50歳代が40.0%、女性では60歳代が41.9%と最も多くなっている。(図表2-6)

2-4 個人が日常生活で行う取り組みが十分にできない理由

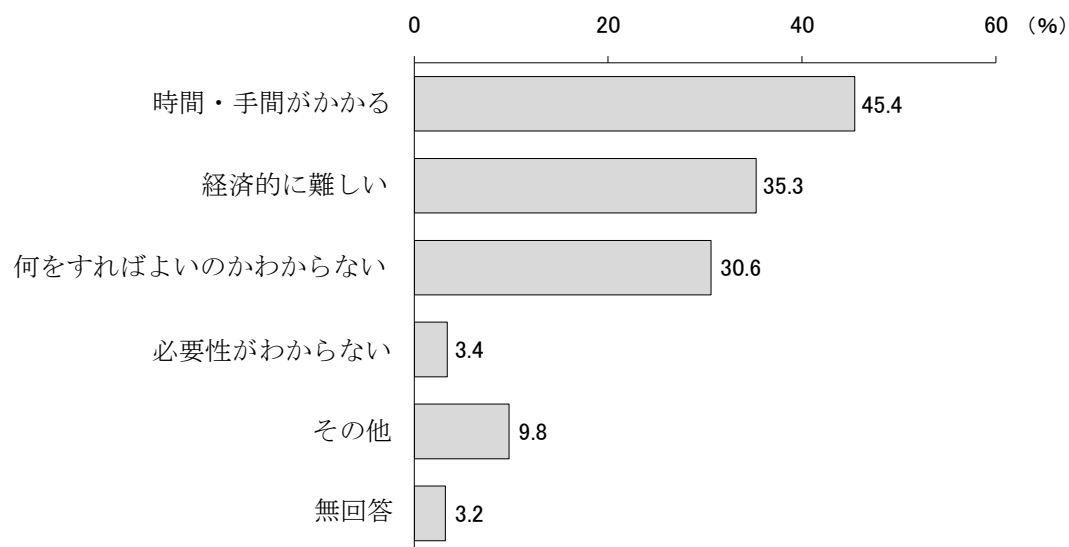
◎「時間・手間がかかる」が45.4%

(問10で2～5と回答した方におうかがいします。)

問11 取り組みが十分にできない(しない)理由は何でしょうか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-7 個人が日常生活で行う取り組みが十分にできない理由

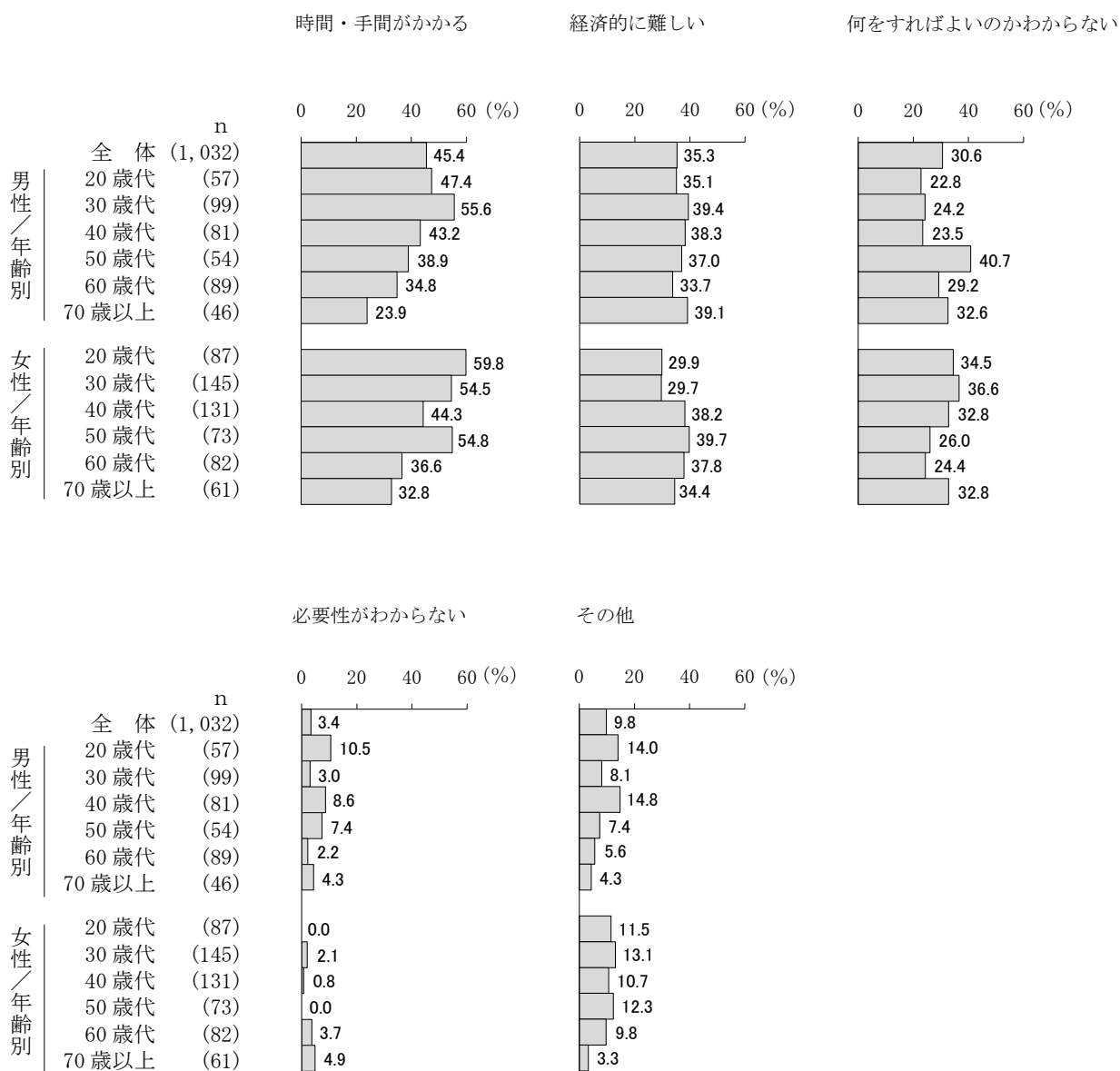
(複数回答) n = (1,032)



個人が日常生活で行う取り組みが十分にできない理由は、「時間・手間がかかる」の45.4%が最も多くなっている。次いで、「経済的に難しい」が35.3%、「何をすればよいのかわからない」が30.6%となっている。(図表2-7)

(第1回アンケート)

図表2-8 個人が日常生活で行う取り組みが十分にできない理由（性／年齢別）



性／年齢別では、「時間・手間がかかる」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。「経済的に難しい」は、男性では3割台半ばから3割台後半となっている。女性では20歳代から30歳代までが2割台後半と少なくなっている。「何をすればよいのかわからない」は、男性では50歳代が40.7%と最も多くなっている。女性では30歳代が36.6%と最も多くなっている。(図表2-8)

2-5 現在行っている取り組み・今後行いたい取り組み

◎「こまめに消灯したり、家電の待機電力を減らす」が77.2%

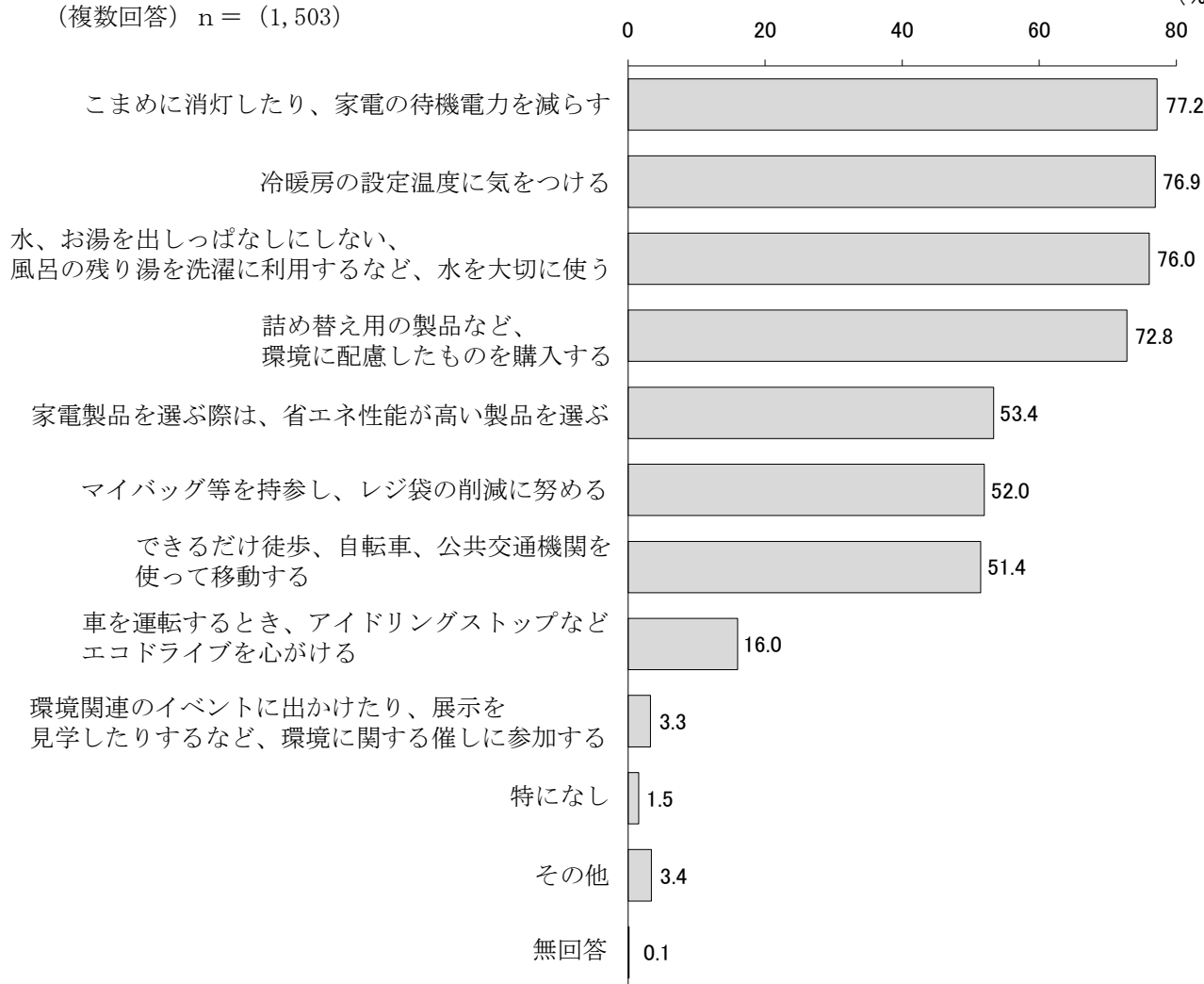
問12 個人や家庭でできる地球温暖化防止に向けた取り組みとして、現在どのようなことを行っていますか。また、今後はどのようなことを行いたいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

図表2-9 現在行っている取り組み・今後行いたい取り組み

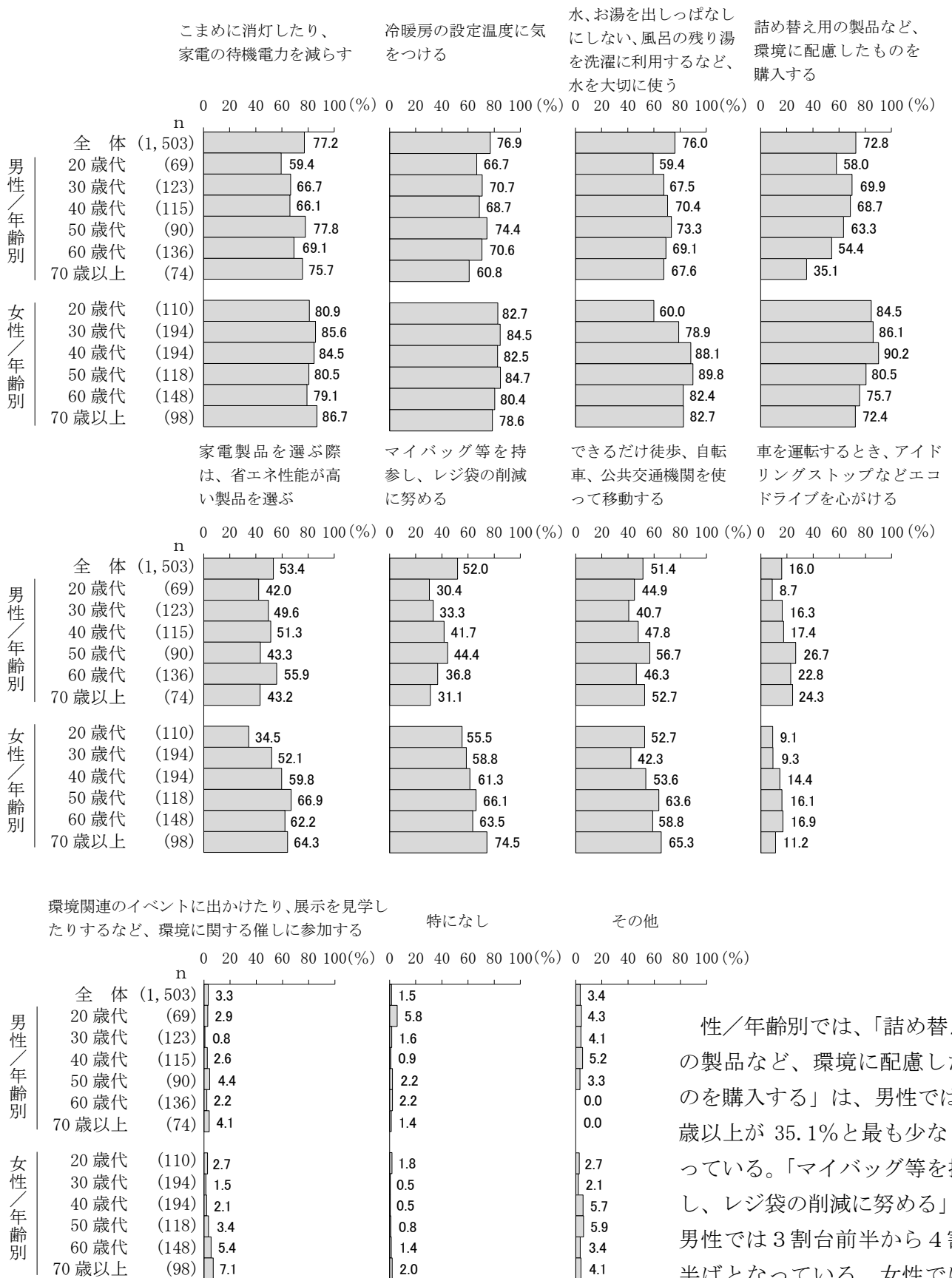
(複数回答) n = (1,503)

(%)



現在行っている取り組み・今後行いたい取り組みは、「こまめに消灯したり、家電の待機電力を減らす」の77.2%が最も多くなっている。次いで、「冷暖房の設定温度に気をつける」が76.9%、「水、お湯を出しっぱなしにしない、風呂の残り湯を洗濯に利用する」が76.0%となっている。(図表2-9)

図表2-10 現在行っている取り組み・今後行いたい取り組み（性／年齢別）



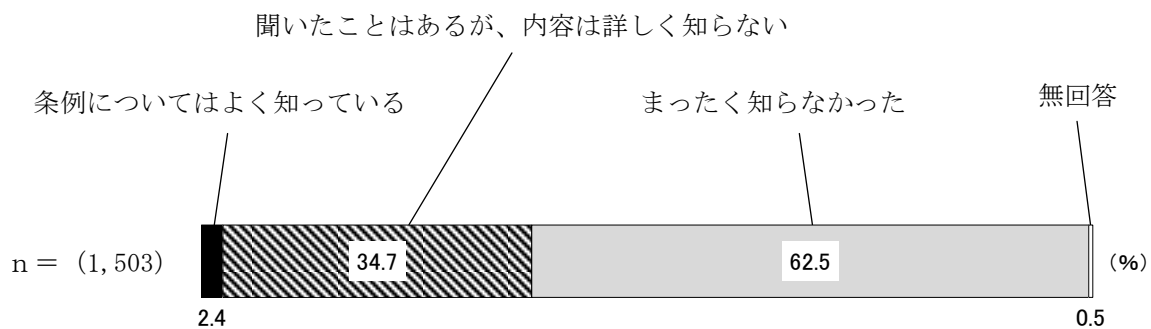
2-6 「川崎市地球温暖化対策推進条例」の認知状況

◎「まったく知らなかった」が62.5%

問13 川崎市では、地球温暖化対策を推進していくため、※「川崎市地球温暖化対策推進条例」を制定し、平成22年4月1日から施行しました。あなたはこの条例について知っていましたか。

(○は1つだけ)

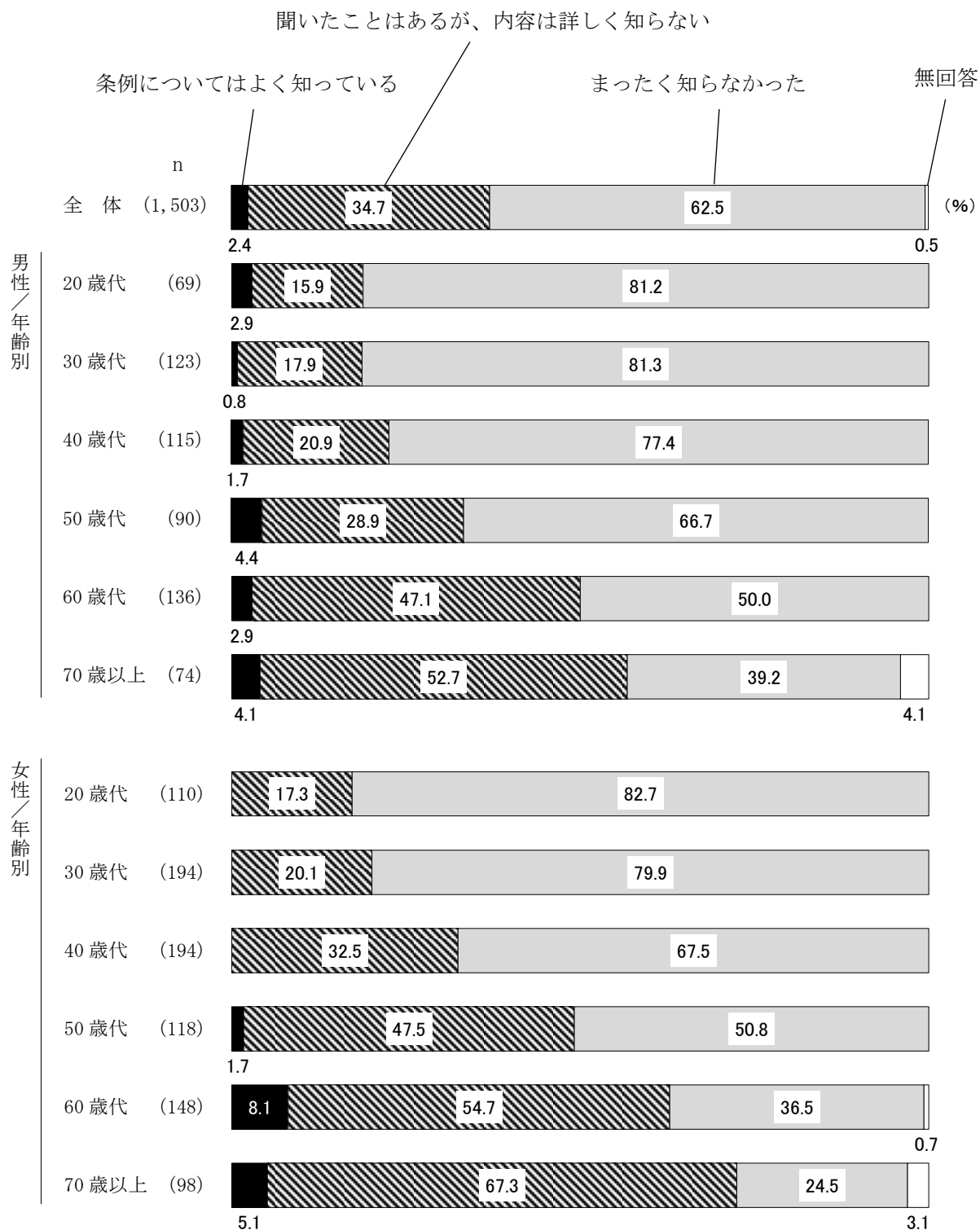
図表2-11 「川崎市地球温暖化対策推進条例」の認知状況



「川崎市地球温暖化対策推進条例」の認知状況は、「まったく知らなかった」が62.5%、「聞いたことはあるが、内容は詳しく知らない」が34.7%、「条例についてはよく知っている」が2.4%となっている。(図表2-11)

(第1回アンケート)

図表2-12 「川崎市地球温暖化対策推進条例」の認知状況(性/年齢別)



性/年齢別では、「まったく知らなかった」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。(図表2-12)

2-7 川崎市に取り組んで欲しい地球温暖化対策

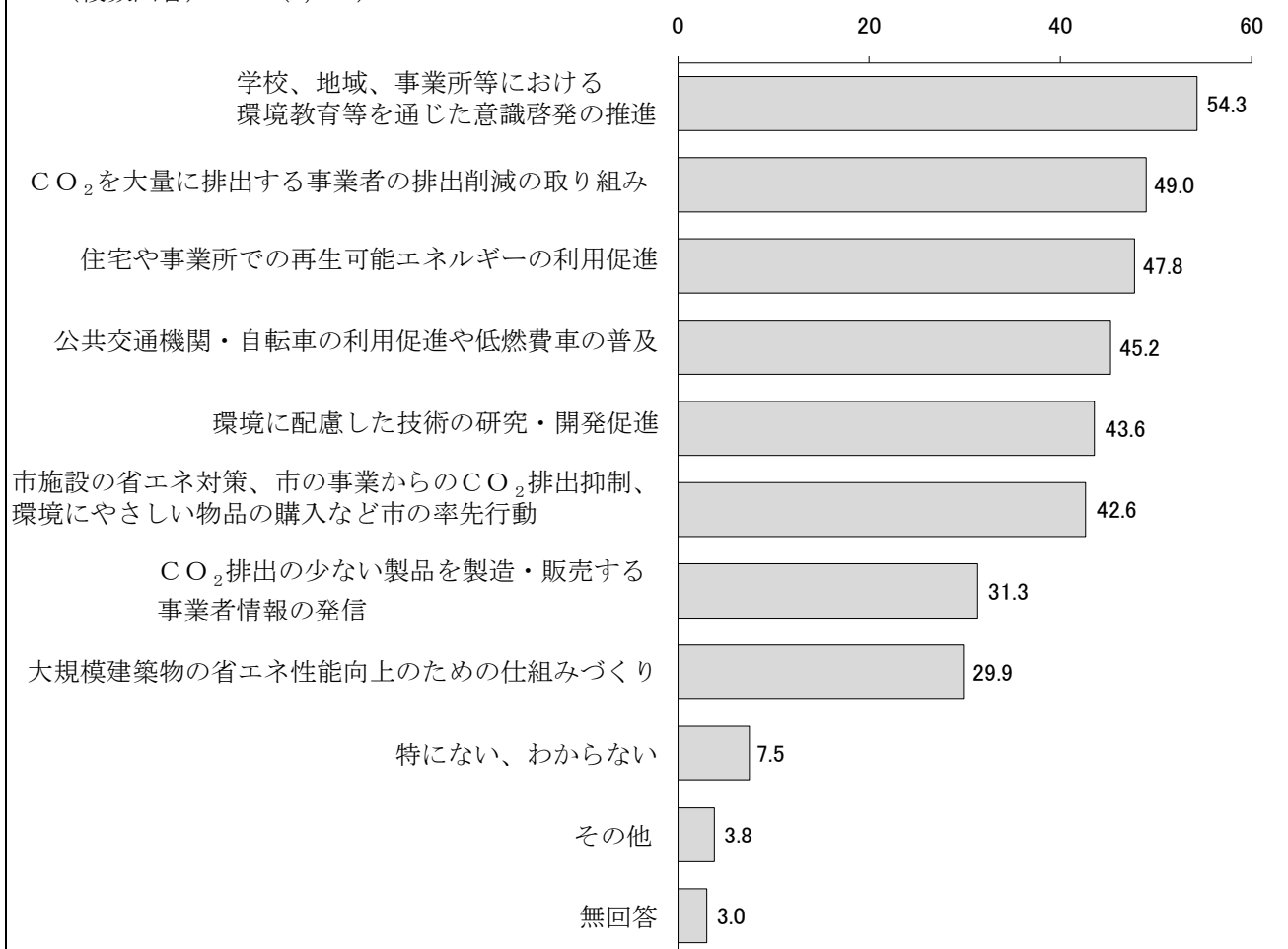
◎「学校、地域、事業所等における環境教育等を通じた意識啓発の推進」が54.3%

問14 今後、川崎市に取り組んでほしい地球温暖化対策は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-13 川崎市に取り組んで欲しい地球温暖化対策

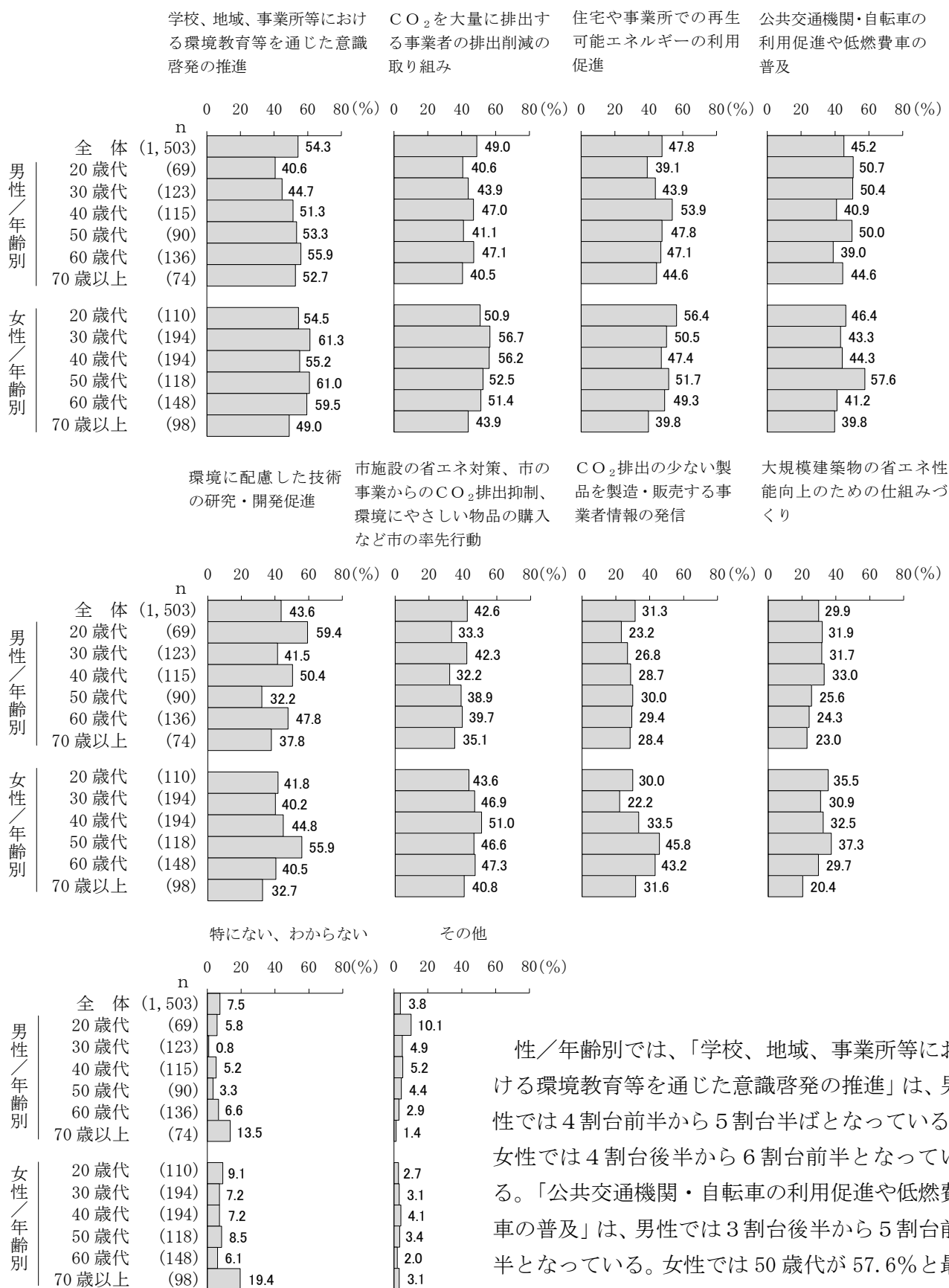
(複数回答) n = (1,503)

(%)



川崎市に取り組んで欲しい地球温暖化対策は、「学校、地域、事業所等における環境教育等を通じた意識啓発の推進」の54.3%が最も多くなっている。次いで、「CO₂を大量に排出する事業者の排出削減の取り組み」が49.0%、「住宅や事業所での再生可能エネルギーの利用促進」が47.8%となっている。(図表2-13)

図表2-14 川崎市に取り組んで欲しい地球温暖化対策（性／年齢別）



性／年齢別では、「学校、地域、事業所等における環境教育等を通じた意識啓発の推進」は、男性では4割台前半から5割台半ばとなっている。女性では4割台後半から6割台前半となっている。「公共交通機関・自転車の利用促進や低燃費車の普及」は、男性では3割台後半から5割台前半となっている。女性では50歳代が57.6%と最も多くなっており、他の年代では3割台後半から4割台半ばとなっている。(図表2-14)

2-8 川崎市に最も主体的に取り組んでほしい対策

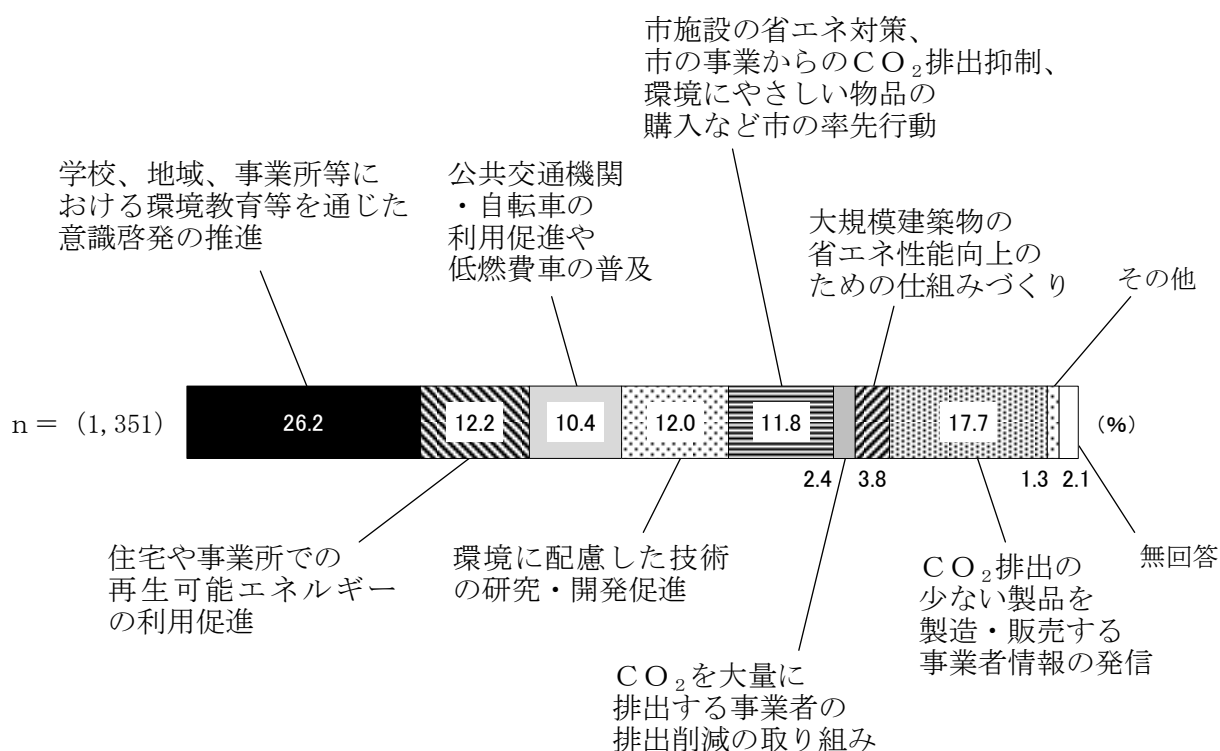
◎「学校、地域、事業所等における環境教育等を通じた意識啓発の推進」が26.2%

(問14で1～9のいずれかに回答した方にうかがいます。)

問15 問14で○をつけたもののうち、川崎市に最も主体的に取り組んでほしいものは何ですか。

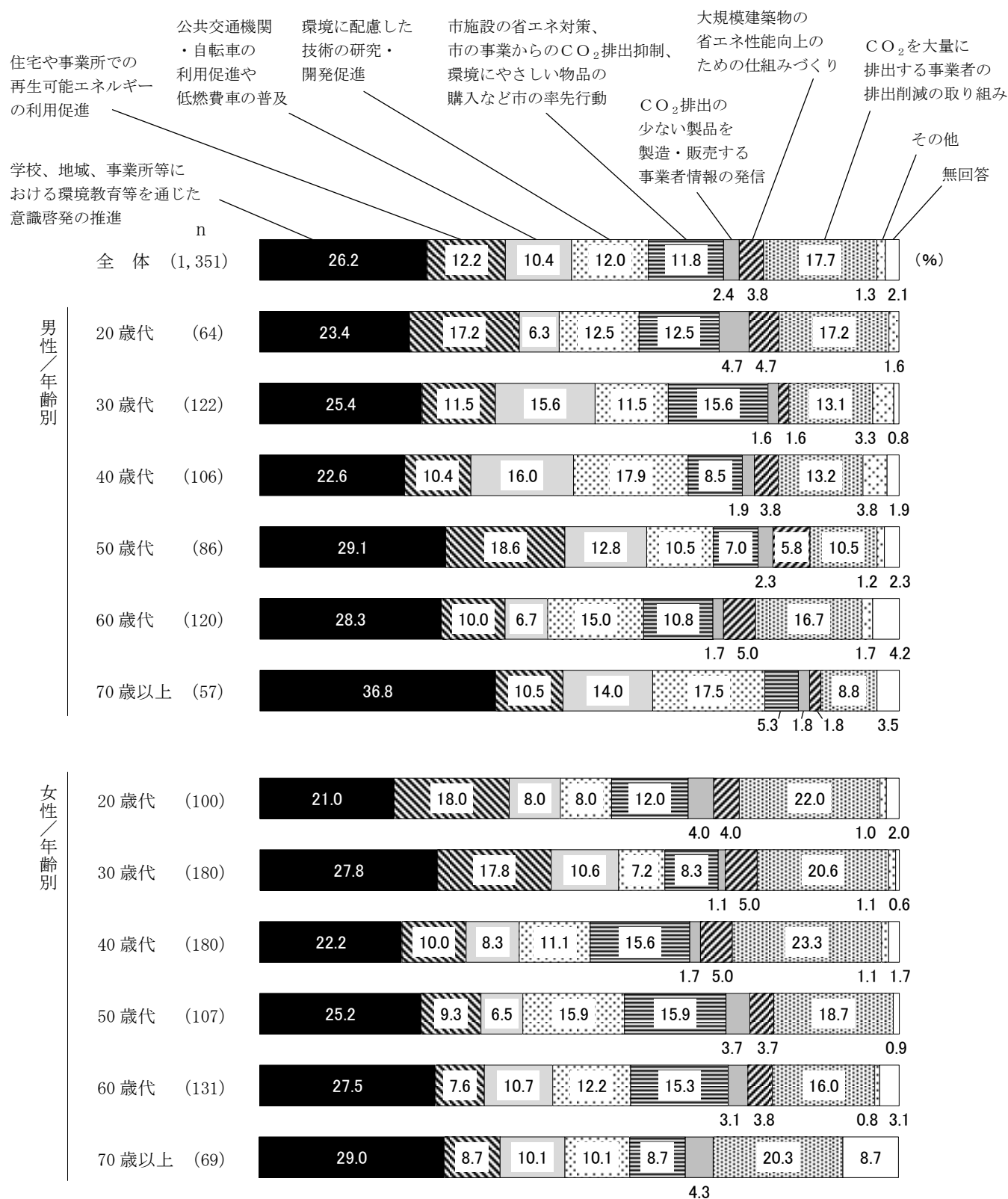
(○は1つだけ)

図表2-15 川崎市に最も主体的に取り組んでほしい対策



川崎市に最も主体的に取り組んでほしい対策は、「学校、地域、事業所等における環境教育等を通じた意識啓発の推進」が26.2%、「CO₂を大量に排出する事業者の排出削減の取り組み」が17.7%、「住宅や事業所での再生可能エネルギーの利用促進」が12.2%となっている。(図表2-15)

図表2-16 川崎市に最も主体的に取り組んでほしい対策（性／年齢別）



性／年齢別では、「学校、地域、事業所等における環境教育等を通じた意識啓発の推進」は、男性では70歳以上が36.8%と最も多くなっており、他の年代では2割台前半から2割台後半となっている。女性では2割台前半から2割台後半となっている。（図表2-16）